

令和3年度
（2021年度）

業 務 年 報

大分県農林水産研究指導センター

令和3年度(2021年度)業務年報

目 次

I 大分県農林水産研究指導センターの概要	1
1 農林水産研究指導センターの組織	1
2 各所属の業務・試験研究	2
3 試験研究課題の重点化と評価の徹底	3
4 情報発信機能の強化	7
5 試験研究機関の連携推進	9
6 研究員の資質向上	10
7 知的財産権の取得状況	16
8 九州大学との連携	17
9 受賞、学位取得の状況	18
10 主要な行事・会議等	18
11 予算概要	19
II 研究部・グループの概要	20
1 農業研究部	20
2 水田農業グループ	27
3 果樹グループ	32
4 花きグループ	37
5 畜産研究部	41
6 林業研究部	47
7 きのことグループ	51
8 水産研究部(北部水産グループ含む)	57
農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先	66

I 大分県農林水産研究指導センターの概要

1. 農林水産研究指導センターの組織

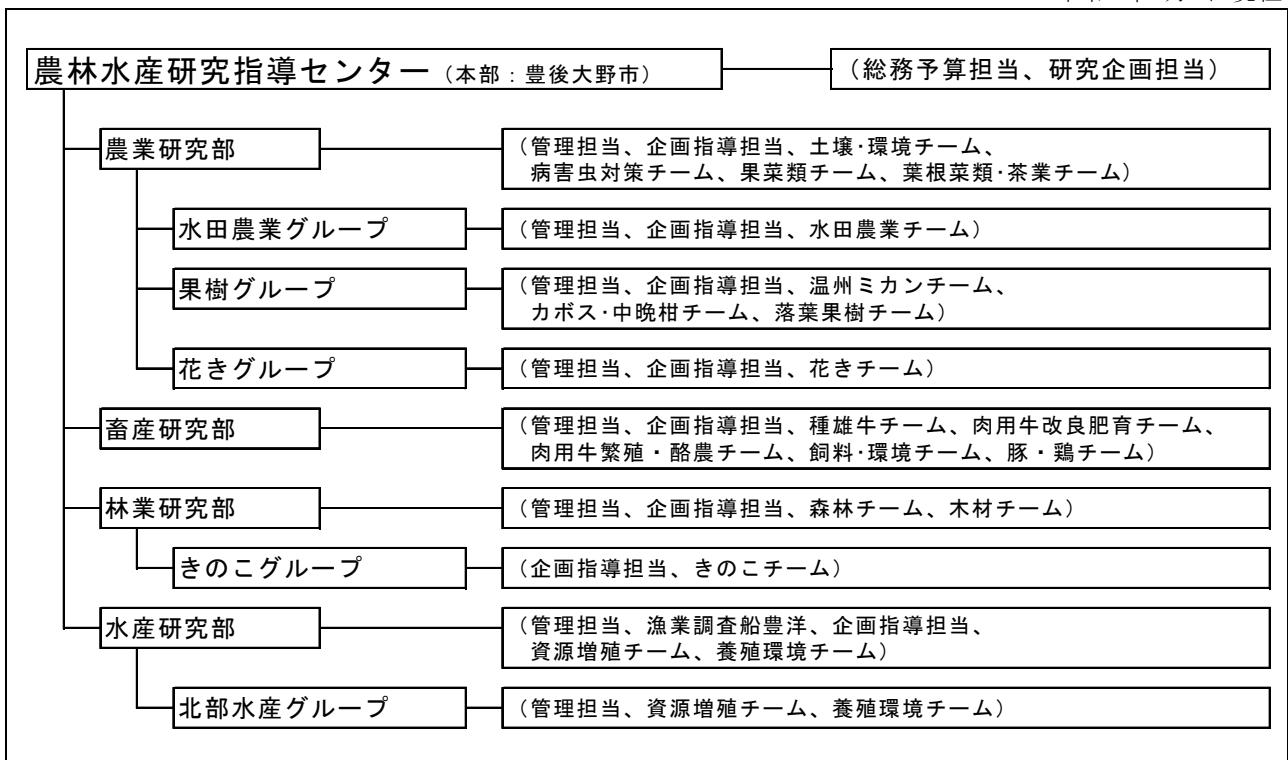
平成17年4月に、農業、畜産、林業、水産の各試験研究機関を統合し、「農林水産研究センター」を設置した。その後の農林水産業を取り巻く環境や情勢の変化を踏まえ、「産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業」を実現するため、現場ニーズに応えた研究、研究のスピード化、成果の迅速な普及に向けて研究指導體制を強化し、平成22年4月に「農林水産研究指導センター」に名称を変更した。同時に、環境対策をはじめ分野を超えた研究課題に対し、連携強化を図るため、農業・畜産・林業・水産の4研究部に再編するとともに、効率的・効果的な研究開発に向け、チーム制を導入した。また、組織全体を統括するため、センター長、管理調整監、研究企画監、総務予算担当、研究企画担当を豊後大野市に配置した。その後も、実情に応じ各チームの再編や名称変更等を行い、現在の組織体制に至っている。

平成28年3月には「変化に対応し、挑戦と努力が報われる農林水産業を実現するための研究開発を行う」ことを基本理念として、「大分県農林水産試験研究基本指針（令和2年3月改訂）」を作成し、成果の活用先（ターゲット）を明確にして経済性を重視した研究開発を行い、農林水産業の創出額増加に寄与することとしている。

引き続き、研究員自らが普及指導員等と一緒に生産現場に赴き、開発した技術を生産者へ普及・指導できるよう、豊後大野市のセンター本部では試験研究機関の予算の総合調整、研究課題の決定・進行管理、試験課題評価・成果公表、研究員の資質向上等の業務を行う。

農林水産研究指導センターの組織体系

令和3年4月1日現在



農林水産研究指導センター各場所別職員配置表

令和3年4月1日現在

機関	事務吏員	技術吏員					技能職員 事務補佐	合計
		研究	行政	普及	海事	計		
農林水産研究指導センター(本部)	3		6			6		9
農業研究部	5	35	1			36	7	48
水田農業グループ	3	9	1			10	4	17
果樹グループ	1	14	1			15	4	20
花きグループ	1	8	1			9	4	14
畜産研究部	4	23	2			25	26	55
林業研究部	2	13	1			14	1	17
きのこグループ		6	1	2		9	1	10
水産研究部	3	17	1		7	25		28
北部水産グループ	1	11	1			12		13
合計	23	136	16	2	7	161	47	231

2. 各所属の業務・試験研究

所属名	主な業務・研究内容
農林水産研究指導センター(本部)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究課題の決定調整・進行管理 ○共同研究の調整・知的財産取得・活用 ○課題評価・成果公表 ○研究員の資質向上 ○産学官交流・連携促進
農業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○土壌管理・施肥改善技術、有機栽培技術、スマート農業（ドローン） ○病虫害発生予察・防除技術、環境保全型農業技術 ○イチゴの品種育成・選定、栽培技術 ○トマト・ピーマン等の品種選定、栽培技術 ○ネギ・カンショ等の品種選定、栽培技術 ○茶の品種選定、栽培・加工技術
水田農業グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○稲・麦・大豆の品種の育成・選定、栽培技術改善 ○稲・麦・大豆の優良種子生産 ○水田畑地化を実現するための技術開発 ○水田大規模経営体の生産性向上を目的とした技術開発
果樹グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術 ○カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○ナシ・ブドウ・キウイフルーツ等の育種、優良系統の選抜、栽培技術
花きグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○花き類の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○バイオ技術
畜産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給 ○肉用牛の飼養技術及び繁殖技術 ○乳用牛の飼養技術及び繁殖技術 ○牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策 ○豚の育種、飼養管理技術並びに精液供給 ○家禽の育種並びに飼養管理技術
林業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○育種・育林技術、病虫獣害対策技術 ○木材乾燥技術、木材性能評価、木竹材製品開発 ○林業に関する研修及び現地指導
きのこグループ	<ul style="list-style-type: none"> ○きのこの育種、栽培技術、病虫害防除技術 ○きのこ類の生理、分類、同定に関する研究
水産研究部	<ul style="list-style-type: none"> ○種苗生産と育種、放流効果技術、水産資源管理、漁場造成技術 ○別府湾以南の漁場環境保全・赤潮等の被害防止技術 ○海面養殖技術の開発、水産物の品質向上技術、魚介類の疾病対策
北部水産グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○種苗生産と育種、放流効果技術、水産資源管理、海藻類の増養殖技術 ○別府湾以北の漁場環境保全・赤潮等の被害防止技術 ○内水面の増養殖技術の普及指導、資源管理、環境及び生物の保全、魚病診断・対策技術

3. 試験研究課題の重点化と評価の徹底

試験研究を効率的に実施するため、課題数を概ね100課題に厳選し、さらに試験研究のスピード化を図るため、研究期間を原則3年間以内としている。

また、現場ニーズを広く収集し、農林水産業の振興や県民生活の向上などに資する試験研究を行うために、ホームページや文書などで一般県民や生産者、関係団体などに試験研究課題に対する要望調査を行い、関係者等から177件の要望を収集した。

研究課題の設定にあたっては、収集した要望の中から試験研究として取組可能な課題を選定のうえ事前評価（部門別評価及び全体評価）を行い、さらに研究課題が決まった後には試験研究進行管理と事後評価（結果検討）を行った。なお、評価結果はホームページにて公表した。

（1）事前評価

1）試験研究課題調整会議

収集した要望の中から試験研究として取組可能な課題を選定するため、各所属単位で開催し、県民のニーズや政策的なニーズ、目標達成の可能性など全ての観点から、開発しようとする技術の内容や手法を精査し、次年度に向けた課題実施の適否について判断した。

2）試験研究課題検討会

課題調整会議で絞り込んだ要望課題に対して、現場ニーズに合致した試験研究計画とするため、各所属単位で開催し、研究員、関係課・室、普及指導員等に出席を求め、研究実施の必要性、方法の適否、成果とその普及手法等について検討した。

3）部門別評価会議：7月12日～14日（書面による評価）

試験研究課題にかかる県庁関係課・室班総括、振興局の関係する班総括及び生産者団体の役職員を部門別評価者とする試験研究部門別評価会議により、「政策的妥当性」及び「試験研究開発効果」について評価を受けた。

4）全体評価会議：8月23日～25日（書面による評価）

外部評価委員会（有識者、学識経験者、流通関係者、生産者代表）及び企画評価会議（部局横断的な視点から農林水産関係試験研究の企画戦略面での提言・助言を行なもの）をもって構成する全体評価会議により、「研究課題の必要性」、「研究課題の社会的・経済的效果」及び「県が行う必要性」について評価を受けた。

令和3年度 大分県農林水産部試験研究外部評価委員

分野	委員名	役職等	選定理由等
有識者	うえまつ やすなり 植松 康成	(株)日本政策投資 銀行 大分事務所長	地域経営や地域づくりに関する豊富な情報を踏まえた評価が期待できる。
学識経験者	たてまつ ようこ 立松 洋子	(元)別府大学短期大 学部食物栄養科 教授 ・学科長	食品、教育の造詣が深く、食育への取り組みを踏まえた評価が期待できる。
流通関係者	ながお きくお 長尾 喜久男	京都青果合同(株) 取締役	大分県マーケティングアドバイザーであり、大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。

分野	委員名	役職等	選 定 理 由 等
流通関係者	ふくやま ひろひさ 福山 博久	イオン九州(株) 食品コーディネーター部 地域・生産者支援チームマネ ージャー	大分県マーケティングアドバイザーであり、大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。
生産者代表	(農業) むらかみ えり 村上 枝里	株式会社村上農園 取締役	にら経営（大分市最大） 栽培管理・出荷調整部門の責任者として自社農場の運営を行っており、生産性向上への技術改善に積極的に取り組んでいる。
	(農業) きむら ふさお 木村 房雄	ハウスみかん生産者	大分県柑橘研究会会長 JAおおいた杵築地域柑橘研究会会長
	(畜産) ひらかわ おさむ 平川 修	畜産農家	肉用牛の繁殖成績改善のため、ICT技術を活用して好成績を挙げており、畜産部門以外の農林水部門全般においても幅広い意見が期待できる。前「鼓動」会長（畜産協会が事務局を務める民間の学習組織）
	(林業) くどう よういち 工藤 洋一	久大林産(株) 代表取締役	認定林業事業体の取締役であり、主に素材生産、造林請負業を営んでいる。 大分県西部地域林材業労働安全対策連絡協議会委員 玖珠木材協同組合副理事長
	(水産) わたなべ ひでとし 渡邊 英敏	小型底曳網漁業者	大分海区漁業調整委員会委員 大分県漁協宇佐支店底曳網協議会会長 豊前海底曳連合会会長

(令和3年4月1日現在)

5) 令和4年度研究課題の決定

部門別評価で総合得点60点以上の評価を得た新規候補課題については、次の全体評価に進むことができる(この時点で60点未満のものについては全体評価対象課題から除外となる)。今回、部門別評価を受けた新規候補課題数は18課題であり、すべての課題は総合得点が60点以上であり、全体評価の対象課題となった。

全体評価では、総合得点60点以上の評価を得た新規候補課題を令和4年度予算要求課題候補にすることとしており、今回、全体評価を受けた18課題はすべて総合得点が60点以上であった。

6) 推進本部会議による承認：10月13日

農林水産部長、審議監、関係課・室長、農業大学校長から構成される推進本部会議を開催し、全18課題について、令和4年度予算要求候補課題として承認された。

(2) 事後評価（試験研究結果の検討）

現地移転の促進や次期試験研究計画の策定等に活かすため、各所属で試験研究終了の翌年度に試験研究結果検討会を開催し、研究目標等に対する達成状況について検証した。

(3) 農林水産試験研究アドバイザー

各所属の内部会議等に招集するなど、大学や国立研究開発法人等の研究者や専門的な知識・経験を有する有識者などのアドバイザーから、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

大分県農林水産研究指導アドバイザー(令和3年4月1日～令和3年9月30日)

	所 属 名	職 名	氏 名
農業研究部 (土壌・環境)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 生産環境科学講座	教授	平館 俊太郎
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 土壌肥料グループ	グループ長	小林 創平
農業研究部 (病害虫)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 生物的防除研究施設	准教授	上野 高敏
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 生産環境研究領域 病害グループ	グループ長	井上 博喜
農業研究部 (野菜)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生物科学講座	教授	尾崎 行生
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 園芸研究領域	園芸研究 領域長	山崎 篤
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畑作研究領域 畑機械・栽培グループ	グループ長	石井 孝典
農業研究部 (茶業)	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 研究推進部 研究推進室	茶業連携調整役	吉田 克志
水田農業 グループ	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生産生態学分野 農学部附属農場	助教	安彦 友美
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 水田作研究領域 水田栽培グループ	グループ長	中野 洋
果樹 グループ	国立大学法人 鹿児島大学	名誉教授	富永 茂人
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	九州沖縄果樹 研究調整役	吉岡 照高
	国立大学法人 鳥取大学	理事・ 副学長	田村 文男
花き グループ	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域	上級研究員	今村 仁
	東海大学	名誉教授	田中 孝幸
	宇田花づくり研究所	代表	宇田 明
畜産研究部	国立大学法人 広島大学 大学院統合生命科学研究科	教授	島田 昌之
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 農学部附属農場 高原農業実験実習場 家畜生産生態学講座	准教授	高橋 秀之
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畜産研究領域	上級研究員	加藤 直樹
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 畜産草地研究領域 肉用牛生産グループ	グループ長	竹之内 直樹
林業研究部	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター九州育種場	育種課長	久保田 正裕
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林生態系研究グループ	主任研究員	野宮 治人
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 サステイナブル資源科学講座	准教授	藤本 登留
きのこ グループ	国立大学法人 琉球大学農学部 亜熱帯生物資源科学科 生物機能開発学分野 林産科学研究室	教授	高島 幸司
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研究グループ	グループ長	宮崎 和弘
水産研究部	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 水産生物環境学研究室	准教授	島崎 洋平
	国立大学法人 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 生態系解析部門 魚類感染症学研究室	准教授	北村 真一
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育種部長	照屋 和久
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育種基盤 グループ長	岡本 裕之
北部水産 グループ	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科 生物環境学講座 藻場生態系保全研究室	教授	村瀬 昇
	福山大学 生命工学部 海洋生物科学科 沿岸資源培養学研究室	教授	太田 健吾

農研機構 10名、森林機構 3名、水研機構 3名、大学 14名、その他 1名 合計 31名

大分県農林水産研究指導アドバイザー(令和3年10月1日~令和4年3月31日)

	所 属 名	職 名	氏 名
農業研究部 (土壌・環境)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 生産環境科学講座	教授	平館 俊太郎
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 研究推進部 技術適用研究チーム	チーム長	荒川 祐介
農業研究部 (病害虫)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 生物的防除研究施設	准教授	上野 高敏
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域 畑作物・野菜栽培グループ	上級研究員	井上 博喜
農業研究部 (野菜)	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生物科学講座	教授	尾崎 行生
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域 施設野菜グループ	領域長補佐	山崎 篤
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域 畑作物・野菜栽培グループ	グループ長	石井 孝典
農業研究部 (茶業)	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 研究推進部 研究推進室	茶業連携調整役	吉田 克志
水田農業 グループ	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 農業生産生態学分野	助教	安彦 友美
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地水田輪作研究領域 水田高度利用グループ	グループ長補佐	中野 洋
果樹 グループ	国立大学法人 鹿児島大学	名誉教授	富永 茂人
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター	九州沖縄果樹 研究調整役	吉岡 照高
	国立大学法人 鳥取大学	理事・ 副学長	田村 文男
花き グループ	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域	上級研究員	今村 仁
	東海大学	名誉教授	田中 孝幸
	宇田花づくり研究所	代表	宇田 明
畜産研究部	国立大学法人 広島大学 大学院統合生命科学研究所	教授	島田 昌之
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 農学部附属農場 高原農業実験実習場 家畜生産生態学講座	准教授	高橋 秀之
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畜産研究領域	上級研究員	加藤 直樹
	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 暖地畜産研究領域 肉用牛生産グループ	グループ長	竹之内 直樹
林業研究部	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター九州育種場	育種課長	久保田 正裕
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林生態系研究グループ	主任研究員	野宮 治人
	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 環境農学部門 サステイナブル資源科学講座	准教授	藤本 登留
きのこ グループ	国立大学法人 琉球大学 農学部 亜熱帯生物資源科学科 生物機能開発学分野 林産科学研究室	教授	高島 幸司
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研究グループ	グループ長	宮崎 和弘
水産研究部	国立大学法人 九州大学 大学院農学研究院 資源生物科学部門 水産生物環境学研究室	准教授	島崎 洋平
	国立大学法人 愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 生態系解析部門 魚類感染症学研究室	准教授	北村 真一
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育種部長	照屋 和久
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育種基盤 グループ長	岡本 裕之
北部水産 グループ	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科 生物環境学講座 藻場生態系保全研究室	教授	村瀬 昇
	福山大学 生命工学部 海洋生物科学科 沿岸資源培養学研究室	教授	太田 健吾

農研機構 10名、森林機構 3名、水研機構 3名、大学 14名、その他 1名 合計 31名

4. 情報発信機能の強化

(1) 研究Now

研究成果等を「研究Now」と題してホームページに月1回のペースで掲載し、研究内容を分かりやすく紹介した。

令和3年度 研究Now 一覧

vol.	公表日	所属	タイトル
111	R3. 5. 11	水産研究部	かぼす養殖魚、第三の刺客「かぼすヒラマサ」の生産技術確立に向けて
112	R3. 6. 1	農業研究部	マルチコプターによる空撮画像を用いた白ねぎ生育診断技術の開発
113	R3. 10. 12	林業研究部	SD15の基準をクリアした構造用製材の生産
114	R3. 11. 15	農業研究部	白ねぎの生育を安定させる大苗育苗技術
115	R3. 12. 6	水田農業グループ	水稻早生品種「なつほのか」を認定品種に採用しました！
116	R3. 12. 10	きのこグループ	乾シイタケ2年目発生量の増大
117	R4. 2. 14	北部水産グループ	身近な環境データからマガキの最適な採苗時期を推測！
118	R4. 2. 18	畜産研究部	期待される藤良系種雄牛（「桜萬福」・「桜花久」）の紹介
119	R4. 2. 28	果樹グループ	個性あふれる新しいワイン用ブドウが間もなく誕生！
120	R4. 3. 4	農業研究部	土着天敵タバコカスミカメを活用した夏秋ピーマンにおけるアザミウマ防除

(2) 普及カード

各研究部・グループが実施した研究のうち、生産現場に普及すべき成果（令和2年度までに成果が得られたもの）を「令和2年度普及カード」として生産者及び関係者向けに作成しホームページで情報提供を行った。

令和2年度 普及カード一覧

No	研究機関名	タイトル	研究課題名	試験年度 期間	資料
1	農業研究部	ネギベと病防除体系の確立	平坦地に適した根深ネギベと病の防除技術の確立	H30～R2	
2	農業研究部	ピーマンで採集したアザミウマ類の薬剤感受性検定	夏秋ピーマンにおける天敵を主体とした害虫防除技術の構築	H30～R2	○
3	水田農業グループ	麦生育期の牛ふん堆肥散布技術の確立	麦栽培期間中の堆肥投入による水田地力回復技術の確立	H30～R2	
4	水田農業グループ	はだか麦「ハルアカネ」の特性	水田農業転換期を支える多収型優良品種の導入に向けた栽培法の確立	R1～R3	
5	水田農業グループ	水稲早生品種「なつほのか」の特性	水稲・麦・大豆の品種選定	R1～R3	
6	果樹グループ	水田転換に対応するための落葉果樹土壌環境調査	水田転換に対応した新たな落葉果樹栽培技術の開発	H30～R2	
7	果樹グループ	デンドロメータを用いたハウスミカンの水ストレス程度の推定	ハウスミカン栽培における適正水分管理技術と省力・高収益栽培技術の開発	H30～R2	○
8	花きグループ	トルコギキョウ斑点病に対する薬剤の防除効果	花き類の難防除病害防除技術の構築	H30～R2	
9	花きグループ	少量培地栽培における周年出荷体制の確立	マーケットニーズに対応した高収益生産技術の確立と新たな花き品目の探索	H30～R2	○
10	畜産研究部	未利用資源(モヤシサイレージ)を利用した豚の低コスト肥育技術の確立	未利用資源(モヤシサイレージ)を利用した豚の低コスト肥育技術の確立	H30～R2	
11	林業研究部	スギ推奨品種さし木苗の増殖に関する研究(Ⅱ)	スギ推奨品種さし木苗の増殖に関する研究(Ⅱ)	H30～R2 (H27～H29 研究の継続)	
12	林業研究部	非住宅分野における大断面製材品の強度性能評価	非住宅分野の木造化に対応する大断面製材品の強度性能評価	H30～R2	○
13	林業研究部	寸法安定性の高い高品質乾燥材生産技術の開発	寸法安定性の高い高品質乾燥材生産技術の開発	H30～R2	
14	林業研究部	再生林に欠かせないシカ害防除技術の開発	再生林に欠かせないシカ害防除技術の開発	H30～R2	
15	きのこグループ	2年目ほど木の散水および打木による発生操作	乾しいたけ栽培の単収向上に関する研究－2年目の発生量の増大－	H29～R2	
16	北部水産グループ	潮間帯を用いたマガキ天然採苗技術の現地実証	地場種苗・健康診断・経営戦略でピンチをチャンスに変えるマガキ養殖システムの確立	H30～R2	○

(3) 刊行物等の発行

センターの取組を刊行物またはホームページにて広報した。

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数	備考
令和2年度業務年報	R3. 8. 17	64	H P 掲載	

（４）農林水産研究タイムリー情報

平成29年8月から、一定の成果が得られた報告（普及カードや研究Now等）以外の日常的な取組（トピックス等）を「農林水産研究タイムリー情報」として県庁ホームページに掲載している。令和3年度の実績は以下のとおりである（計375件発信）。

農業	248件（農業研究部41件、水田農業グループ97件、果樹グループ37件、花きグループ73件）
畜産	8件（畜産研究部8件）
林業	26件（林業研究部15件、きのこグループ11件）
水産	91件（水産研究部41件、北部水産グループ50件）
本部	2件

（５）農林水産研究指導センター研究状況知事報告

試験研究活動や成果を知事・副知事及び県庁職員へ広く情報を提供するために実施した。

年月日	場所	課 題	主な聴講者
R4.1.12	知事室 第一応接室	知事報告 ① 「白ねぎの規模拡大に向けたスマート農業技術の確立」 （農業研究部 土壌・環境チーム 専門研究員 玉井 光秀） （農業研究部 葉根菜類・茶業チーム 研究員 平 将吾） ② 「一般流通製材を用いた新たな柱材の開発」 （林業研究部 木材チーム 主幹研究員 山本 幸雄） ※上記の他に、農業普及関係の2課題が報告された。	知事、 副知事、 部長、 センター長、 所属長、 関係課・室長他

5. 試験研究機関の連携推進

県内の試験研究機関の機能強化、技術向上及び業務の効率化等の円滑な運営を図るため、各機関が総合的かつ有機的な連携体制を構築することを目的として、平成22年度に衛生環境研究センター、産業科学技術センター、農林水産研究指導センターの3機関で大分県試験研究機関連携会議を設置した。また、令和元年度から警察本部 刑事部科学捜査研究所を加えた4機関の体制となった。

なお、令和3年度の事務局は衛生環境研究センターで、下記のとおり4機関の連携を深めた。

開催日	場所	内容
R3.6.25	衛生環境研究センター	本年度の活動体制・内容確認の打合せ会議
R3.7.1	衛生環境研究センター	令和3年度第1回大分県試験研究機関連携会議 (令和2年度事業報告、令和3年度事業計画、衛生環境研究センター見学)
R4.2.22	書面会議	令和3年度第2回大分県試験研究機関連携会議 (令和3年度事業報告等の資料共有)
R4.2.28	Web開催	令和3年度気候変動セミナー

6. 研究員の資質向上

研究課題解決のための高度な技術の習得及び資質向上のため研究員の研修を実施した。

(1) 短期派遣研修

所 属	役職	氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
畜産研究部	研究員	原 彰宏	(独法) 家畜改良センター (福島県西郷村)	福島県	R3. 10. 19~10. 29 (11日間)	種雄牛の選抜ゲノム育種価を活用するため、現在、未選抜の種雄候補牛や改良基礎雌牛について illumina bovineLD SNP チップ解析を実施し、ゲノム育種価を算出する。
きのこグループ	研究員	生野 柁大	森林総合研究所九州支所 (熊本県熊本市)	熊本県	R3. 12. 13~12. 17 (5日間)	緑色トリコデルマ類やピポクレア属など害菌の検索に関する基礎的な技術 (害菌の分離、検索、侵害力の推定方法) の習得を目的に研修を行う。
水産研究部	研究員	村瀬 直哉	(公社) 日本水産資源保護協会 (東京都中央区)	東京都	R3. 12. 13~ R3. 12. 24 (12日間)	養殖衛生管理技術者として必要な知識、技術を習得する (養殖衛生管理技術者養成 本科専門コース)。また、養殖衛生管理技術者本科コース研修を修了した者に受験資格が認められる魚類防疫士技術認定試験を受験する。
水産研究部	主任研究員	白樫 真	大分県農林水産研究指導センター水産研究部 (講師招聘)	-	R3. 12. 14~ R3. 12. 15 (2日間)	ブリ人工種苗の安定供給技術開発を行うために、初期餌料として極めて重要なシオミズツボワムシの大量培養技術を習得する。
	研究員	森田 将伍				
	研究員	鈴木 翔太				

(2) 長期派遣研修

所 属	役職	氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修課題
農業研究部	主任研究員	祖田 嘉教	宮崎大学農学部 (宮崎県宮崎市)	宮崎県	R3. 12. 1~R4. 2. 28 (3ヶ月間)	大豆褐斑粒の発生要因として想定されている病原ウイルスの同定方法や生物検定方法及び媒介昆虫の特定方法にかかる技術習得を行う。

(3) 新規採用研究員研修

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
R3. 4. 19	県庁本館6F 防災活動支援室②	9名 (うち新採研究員7名) (うち新採労務技師2名)	講演①:「農林水産研究指導センターの概要・役割について」 講師:農林水産研究指導センター 研究企画監 藤谷 信二 講演②:「研究員としての心構えについて」 講師:農林水産研究指導センター 研究指導顧問 林 浩昭 質疑・意見交換

(4) 現場体験研修

所属	役職	氏名	派遣先	派遣地	研修期間	研修内容
農業研究部	研究員	山元 美祐	農家 (野菜生産)	臼杵市	R3. 12. 14~R4. 1. 13 (うち10日間)	イチゴの定植、株管理、出荷作業等
農業研究部	研究員	工藤 新一	農業法人 (野菜生産)	豊後大野市	R4. 1. 25~2. 4 (うち8日間)	ミツバの栽培作業、出荷作業等
果樹グループ	研究員	笠木啓喜	農家 (なし生産)	日田市	R3. 12. 20~12. 24 (計5日)	なしの剪定、苗木の仮植え、周辺樹木の伐採
花きグループ	研究員	尾山 仁菜	農家 (花き生産)	佐伯市	R3. 11. 29~12. 3 (計5日)	脇芽取り、ひげ取り、つるおろし、採花、出荷調整等

(5) 若手研究員研修

若手研究員の試験研究遂行能力の向上や生産現場の課題解決、また所属を超えた若手研究員同士の情報共有・連携に向け、若手研究員による研究発表を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内容
R3. 10. 15	産業科学技術センター 多目的ホール (Web 同時開催)	35歳以下の若手 研究員等 35名	①中晩生柑橘の栽培に関する研究 (果樹グループ カボス・中晩柑チーム 研究員 五島 遼太郎) ②県内産カンキツ類の特性を生かした食品素材化 (産業科学技術センター 食品産業担当 研究員 榎野 智也) ③肥育豚 への粳米 サイレージおよび未利用資源給与技術の確立 (畜産研究部 豚・鶏チーム 研究員 稲垣 望) ④植菌後2夏目の水分管理がほだ化に与える影響 (きのこグループ きのことチーム 研究員 生野 柗大) ⑤ヒラメのエドワジエラ症のワクチン開発 (水産研究部 養殖環境チーム 研究員 吉井 啓亮) ⑥総合討論 ⑦研究を進めるうえでの悩み・課題(グループディスカッション)

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 11. 12	林業研究部 (Web 同時開催)	35 歳以下の若手 研究員等 33 名	①病害虫防除所業務について (農業研究部 病害虫対策チーム 研究員 坂本 誠毅) ②水田農業グループ・水田農業チームの業務概要 (水田農業グループ 水田農業チーム 研究員 長島 泰一) ③LED 光線管理による効率的豚人工授精法の確立 (畜産研究部 豚・鶏チーム 研究員 後藤 雅昭) ④無花粉遺伝子を有するスギ精英樹等の雌雄着花量、種子生産量等の調査 (林業研究部 森林チーム 研究員 加藤 小梅) ⑤ブリのレンサ球菌症原因菌の抗原型解析 (水産研究部 養殖環境チーム 研究員 村瀬 直哉) ⑥総合討論
R3. 12. 19	水産研究部 (Web 同時開催)	35 歳以下の若手 研究員等 29 名	①非住宅分野の木造化に対応する大断面製材品の強度性能評価 (林業研究部 木材チーム 研究員 前原 礼明) ②イチゴの品種比較と特性評価 (農業研究部 果菜類チーム 研究員 若林 美里) ③シンクロトロン光を用いたトルコギキョウ種子およびキク挿し穂、 ヤマジノギク挿し穂における突然変異育種手法の開発 (花きグループ 花きチーム 研究員 志賀 灯) ④県種雄牛の精液採取、検査、凍結精液の作成・人工授精師への精液譲渡 (畜産研究部 種雄牛チーム 研究員 加藤 洋平) ⑤ブリの種苗生産について (水産研究部 資源増殖チーム 研究員 鈴木 翔太) ⑥総合討論
R4. 1. 19	Web 開催	35 歳以下の若手 研究員等 34 名	①マルチコプター(ドローン)を活用した白ねぎ等露地野菜の生育診断技術の開発 (農業研究部 土壌・環境チーム 研究員 工藤 新一) ②畜産研究部 飼料・環境チームの業務について (畜産研究部 飼料・環境チーム 研究員 本室 綾女) ③畜産研究部の業務・試験研究について (畜産研究部 肉用牛繁殖・酪農チーム 研究員 村上 敦哉) ④大野川におけるアユ資源の有効利用手法の開発 (北部水産グループ 養殖環境チーム 研究員 西 陽平) ⑤災害時等の緊急調査を想定した GC/MS による化学物質の網羅的簡易迅速測定法の開発 (衛生環境研究センター 水質担当 研究員 秋吉 貴太) ⑥総合討論

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R4. 2. 15	Web 開催	35 歳以下の若手 研究員等 33 名	①農業研究部 葉根菜類・茶業チーム 業務概要（茶業分野） （農業研究部 葉根菜類・茶業チーム 研究員 村上 圭） ②大分県種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析および効果の検証 （畜産研究部 肉用牛改良肥育チーム 研究員 原 彰宏） ③大分県におけるマダコ種苗生産の取組状況と将来展望 （北部水産グループ 資源増殖チーム 研究員 崎山 和昭） ④骨の外観形態及びミトコンドリア DNA 解析による人獣鑑別 （科学捜査研究所 法医係 技術職員 永田 愛美） ⑤9, 10-Phenanthrenequinone (PQ) を誘導体化試薬として用いたヒト血漿中アセトアルデヒド測定法の検討 （科学捜査研究所 化学担当 技術職員 末房 優子） ⑥総合討論

（6）中堅研究員研修

試験研究の中核を担う研究員に対し、大分県農林水産業振興計画や大分県農業総合戦略会議、みどりの食料システム戦略など県内外の行政施策を認識させ、幅広い観点から試験研究に取り組むための意識付けを行った。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R4. 1. 24	Web 開催	35 歳以上の 中堅研究員等 50 名	講演①：「最新の農林水産施策の状況」 講師：農林水産企画課 構造改革企画監 宇都宮 光夫 講演②：「みどりの食料システム戦略」 講師：農林水産省農業技術会議事務局 ・農業分野：研究統括官室 研究統括官 濱松 潮香 氏 ・畜産分野：研究統括官室 研究調整官 松本 光史 氏 ・森林分野：研究開発官室 研究専門官 釣田 竜也 氏 ・水産分野：研究開発官室 研究専門官 樋口 健太郎 氏

（7）チームリーダー研修

各研究部、グループのチームリーダー及び企画指導担当（総括）を対象に研究の企画・立案能力の向上を図り、リーダーとしての自覚を高めることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 11. 29	農林水産研究指導センター会議室	チームリーダー 及び 企画指導担当 (総括)等 33 名	講演：「研究ニーズの把握と的確な研究課題設定、研究成果のアウトプットについて」 講師：農林水産研究指導センター 研究指導顧問 林 浩昭 事例報告および意見・情報交換

（８）マーケティング研修

国内外の農業の動向など幅広い情報とマーケット動向を的確に把握し、農林水産業をめぐる環境等の変化及び市場ニーズをしっかりとつかみ、将来を見据えた新たな発想を生み出す研究員の育成を図ることを目的に研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 12. 15	くにも農産加工有限公司	研究員等 13 名	講演：「農業 IoT（クニミッククラウド）で世界一の品位と安全をめざす」 講師：くにも農産加工有限公司 代表取締役 吉丸 栄市 氏 生産課長 岩崎 史晃 氏 質疑応答・研究課題への要望

（９）数理統計研修

農林水産試験研究における数理統計の基礎を学ぶとともに、試験研究の現場において直面すると思われる数理統計処理の演習を行うため研修を実施した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 12. 1 ～12. 3	県庁舎新館 0A プラザ	研究員等 7 名	「R/Rcmdr/Rstudio の動作確認、統計学概論、データのばらつきの数値化、パラメトリック統計学、実験計画法、多重比較の諸方法、モデル選択論、一般化線形モデル、多変量データと多変量解析」 講師（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域 専門員 三中 信宏 氏

（１０）著作権に関する研修

業務で情報収集や情報発信等を行なう際に、著作権を侵害しないために、著作権に関する認識を深める目的で、講演や意見交換を開催した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 7. 30	産業科学技術センター多目的ホール (Web 同時開催)	研究員等 117 名	講演：「著作権の保護範囲と適正利用」 講師：太閤法律事務所 代表弁護士 榎倉 了胤 氏

（１１）知的財産研修

知的財産は新たな付加価値を創出し、ブランド化や産地間競争での優位性を高めるため、大分県産業化学技術センターが主催する下記研修に研究員等を派遣した。

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 9. 13	産業科学技術センター多目的ホール (Web 同時開催)	研究員等 2 名	講演：「公的機関における知的財産権の位置づけと活用について」 講師：大分大学 産学官連携推進機構 知的財産部門長 教授 松下 幸之助 氏

（12）はやしセミナー

農林水産研究指導センターの研究指導顧問である林浩昭氏がコーディネーターとなり、農業・畜産・林業・水産が抱える共通課題の解決や共通テーマの情報交換を実施し、研究員の資質向上を目的とした「はやしセミナー」を開催した。

はやしセミナー（センター本部主催）

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 7. 30	産業科学技術センター多目的ホール (Web 同時開催)	研究員等 117名	【第1回セミナー】※著作権に関する研修と合同開催 「公的機関における知的財産権の位置づけと利活用について」
R3. 11. 29	農林水産研究指導センター 会議室	研究員等 33名	【第2回セミナー】※チームリーダー研修と合同開催 「研究ニーズの把握と的確な研究課題設定、研究成果のアウトプットについて」
R3. 12. 15	くのみ農産加工 有限会社	研究員等 13名	【第3回セミナー】※マーケティング研修と合同開催 「農業 IoT（クニミックスクラウド）で世界一の品位と安全をめざす」
R4. 1. 24	Web 開催	研究員等 54名	【第4回セミナー】※中堅研究員研修と合同開催 「県内農林水産施策の動向と SDGs や環境を重視する国内外の動き」

出前はやしセミナー（各所属からの要望への対応）

開催年月日	開催場所	参加者数	内 容
R3. 9. 22	果樹グループ 落葉果樹チーム 会議室	研究員等 20名	【出前セミナー】 「大分県の果樹振興を支える研究」 先端技術の導入（AI や IoT など） 新品種の開発 気候変動に影響されない技術 環境倫理を見据えた技術開発

7. 知的財産権の取得状況

令和3年度に新たに登録された知的財産権は、品種が1件であった。なお、令和3年度末までに登録されている特許及び品種は以下のとおりである。

(1) 特許登録

NO.	状況	登録		発明の名称	所属機関	持分割合
		登録番号	登録年月日			
1	登録	3938786	2007/4/6	分娩予知通報システム	畜産研究部	50%
2	登録	4774484	2011/7/8	魚病防除剤及びその製造方法ならびに飼料	水産研究部	40%
3	登録	4783883	2011/7/22	受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法	畜産研究部	50%
4	登録	4905649	2012/1/20	魚用ワクチン、その製造方法、および魚類感染症の予防方法	水産研究部	1/3
5	登録	5281775	2013/5/31	ウシ脂肪交雑形成に関わる一塩基多型およびその利用	畜産研究部	20%
6	登録	5281920	2013/5/31	ウシ脂肪交雑形成に関わる一塩基多型およびその利用	畜産研究部	20%
7	登録	5422848	2013/12/6	受胎率および産子数向上凍結精子およびその製法	畜産研究部	50%
8	登録	5733829	2015/4/24	凍結された精子用希釈液、及び、これを用いた人工授精方法	畜産研究部	50%
9	登録	5818111	2015/10/9	貝類毒化軽減装置および貝類毒化軽減方法	水産研究部	100%
10	登録	5904369	2016/3/25	精子保存液、精子保存方法及び人工授精方法	畜産研究部	50%
11	登録	5967487	2016/7/15	貝類の育成装置	北部水産グループ	1/3
12	登録	6041238	2016/11/18	ブリ細菌性溶血性黄疸の病原体抗原ポリペプチド、及びこれを含む水産用ワクチン	水産研究部	20%
13	登録	6099048	2017/3/3	茶の施肥方法	農業研究部	50%
14	登録	6291669	2018/2/23	転倒ます型流量計測装置	農業研究部	20%
15	登録	6704562	2020/5/15	赤潮原因ラフィド藻類の光逃避行動を誘導する方法	水産研究部	25%
16	登録	6516252	2019/4/26	根深ネギの大苗育成方法	農業研究部	100%
17	登録	6804060	2020/12/4	ブタ精子凍結希釈液用添加剤及びブタ精子の凍結保存方法	畜産研究部	50%
18	登録	6738071	2020/7/21	長尺育苗容器、連続集合鉢体苗を入れる装置、および、巻き取り器具	農業研究部	100%

(2) 品種登録

NO.	状況	登録		農産物の種類	品種名	所属機関	持分割合
		登録番号	登録年月日				
1	登録	15413	2007/3/23	なし	豊里	果樹グループ	100%
2	登録	17734	2009/3/6	かんきつ	大分果研4号	果樹グループ	100%
3	登録	20806	2011/5/24	トルコギキョウ	チェリービー	花きグループ	100%
4	登録	24322	2015/5/20	トルコギキョウ	チェリービー2号	花きグループ	100%
5	登録	24323	2015/5/20	トルコギキョウ	チェリービー3号	花きグループ	100%
6	登録	24345	2015/6/19	ヤマジノギク	TOYO ロマン2号	花きグループ	100%
7	登録	26579	2018/2/9	大麦	トヨノホシ	水田農業グループ	70%
8	登録	28275	2021/1/26	イチゴ	大分6号	農業研究部	100%
9	登録	28847	2022/1/17	かんきつ	大分果研6号	果樹グループ	100%

8. 九州大学との連携

九州大学の教育研究並びに社会貢献の進展と、大分県における農林水産業の振興を図ることを目的に、平成19年1月29日に「国立大学法人九州大学大学院農学研究院、大学院生物資源環境科学府及び農学部と大分県農林水産部との連携に関する基本協定」が締結され、平成24年1月28日に5年間の有効期間延長、さらに平成29年1月28日に再延長を、その後令和4年1月28日に再々延長を行っている。

連携事項としては、(1)共同研究事業、(2)研究者及び学生の派遣・交流事業、(3)学術研究資料の交換事業、(4)その他、本協定の目的の達成に有益な事業であり、これらを行うために「連携協議会」を設置し、今後の連携交流の円滑な実施及び具体的な事業の推進を図ることとしている。令和3年度は、個別課題における連携強化及び新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、従来の全員参加型イベントではなく、具体の課題毎に係る研究室と個別にWeb会議やメールで協議を行った。

連携協議会開催状況

課題名	連携先	日時	訪問者	内容	課題実施状況
有害プランクトン検出センサーを用いた赤潮早期発見技術開発	水産生物環境学研究室 島崎 准教授	R4. 3. 9	水産研究部 主幹研究員 宮村和良	<ul style="list-style-type: none"> 有害プランクトンセンサーでの赤潮監視結果について協議を実施。 現場での有害プランクトン発生の準リアルタイム観測体制構築に関して評価いただいた。 	研究課題：IoT等の新技術を活用した有害・有毒プランクトン対策（県単予算：R3～5）で実施中
魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発	生命機能科学部門 中尾教授、長澤助教	R3. 12. 2 R4. 3. 30	水産研究部 主任研究員 山田英俊	<ul style="list-style-type: none"> オンラインで体表粘液を用いた魚の生理状態評価技術の開発について協議を実施、ヒラメ粘液のサンプリング等で協力いただいた。 	研究課題：魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発（県単予算：R2～4）で実施中

連携協議会関連行事

開催月日	場所	行事名	内容	参集者
R3. 4. 13	九州大学 農学部附属農場 高原農業実験実習場	九州大学大学院 農学研究院・大分 県農林水産研究 指導センター連 携報告会	① 連携協定について ② 令和3年度連携方法等について ③ 次期連携協定について ④ その他意見交換	九州大学農学部附属農場 高原農業実験実習場 高橋准教授 大分県農林水産研究指導センター 光長センター長、 藤谷研究企画監、他1名

9. 受賞、学位取得の状況

(1) 受賞者一覧

該当なし

(2) 学位取得者

令和3年度に学位（博士）を取得した研究員はいなかった。

令和4年3月末時点での当センター在籍職員の学位（博士）保有者は8名である。

センター所属 : 保有8（3）※名

（農研1、水田1、畜産1（1）※、林業1（1）※、きのこ1、水産2（1）※、北水1）

※（）内は会計年度任用職員の内数

センター以外の所属：保有7名

10. 主要な行事・会議等

(1) 主な行事・会議等一覧表

開催年月日	行事名等	場所
R3. 7. 12～7. 14	農林水産部試験研究部門別評価会議	新型コロナウイルス感染拡大により書面開催
R3. 8. 23～8. 25	農林水産部試験研究全体評価会議	〃
R3. 10. 13	農林水産部試験研究推進本部会議	県庁

(2) 所属長会議及び企画調整会議の開催

各試験研究機関との連絡調整を図るため、本部と各研究部長・グループ長とで構成する所属長会議及び各研究部、グループの企画指導担当（総括）等で構成する企画調整会議を開催した。

なお、所属長会議は1回、企画調整会議は5回開催した。

11. 予算概要

令和3年度当初予算(経常的経費[人件費を除く])

(単位:千円)

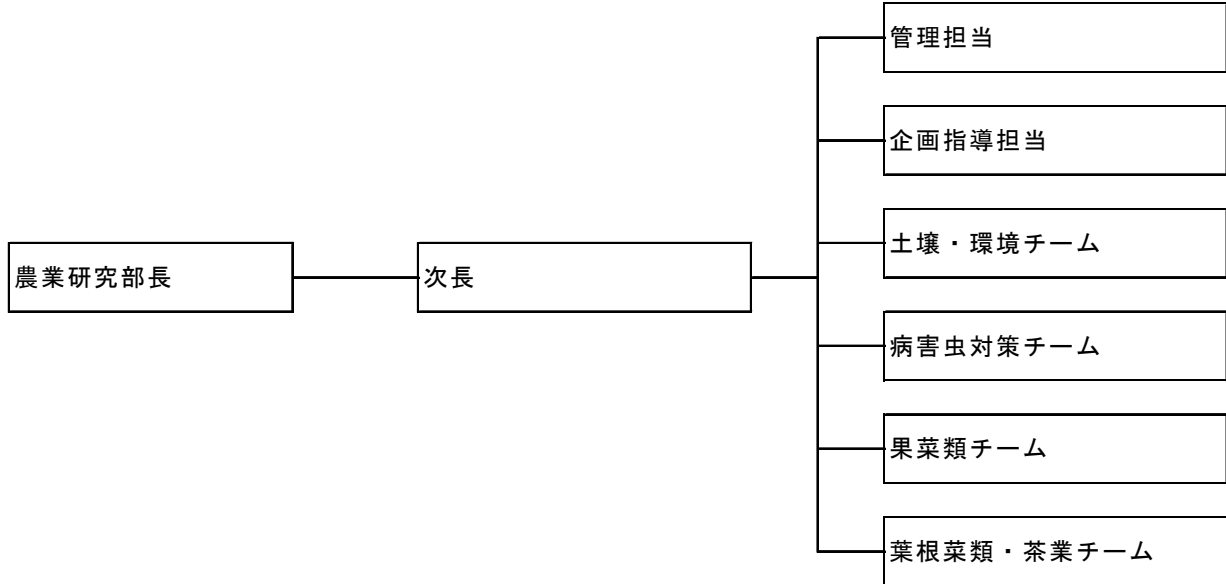
区 分	試験研究調整費	管理運営費 +管理予算	施設整備費	試験研究費	計
試験研究調整費 (農林水産研究指導センター本部)	12,835				12,835
農林水産研究指導センター施設整備事業			90,462		90,462
農業研究部		78,656		46,652	125,308
水田農業グループ		20,499		16,235	36,734
果樹グループ		13,653		26,931	40,584
花きグループ		11,572		16,685	28,257
畜産研究部		61,598		147,751	209,349
林業研究部		20,591		10,585	31,176
きのこグループ				13,062	13,062
水産研究部		54,744		44,055	98,799
北部水産グループ		21,348		22,250	43,598
合計(農林水産研究指導センター)	12,835	282,661	90,462	344,206	730,164

II 各研究部・グループの概要

II-1 農業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部次	長		1					1	兼センター管理調整監 うち農業技術吏員1名
管	長	1						1	
企	担	5						5	
画	当		3					3	
指	当		3					3	
導	担							3	
土	担		7		1			8	
壤	担		7					7	
・	担								
環	担		9			1		10	
境	担		9					9	
チ	担								
ム	担								
病	担		10	3				13	
害	担		10					10	
虫	担								
対	担								
策	担								
チ	担								
ー	担								
ム	担								
果	担		6		1	1		8	
菜	担		6					6	
類	担								
チ	担								
ー	担								
ム	担								
葉	担								
根	担								
菜	担								
類	担								
・	担								
茶	担								
業	担								
チ	担								
ー	担								
ム	担								
計		6	36	3	2	2	0	49	

（3）業務

県の園芸戦略品目を中心に、生産現場の課題解決に直結した研究開発を行い、得られた成果を速やかに生産者へ普及する。試験課題は生産者や消費者・実需者のニーズを的確に捉えたものとし、高品質・安定生産・省力化のための生産技術、ドローン等を活用した生育診断等のスマート農業技術、IPMに基づいた病虫害防除技術および地域未利用資源の新たな活用技術等を開発し実証する。またオリジナル品種の育成や優良品種の選定等に取り組む。

企画指導担当

- ①試験研究の企画調整と進行管理
- ②研究成果のとりまとめと活用
- ③農業情報（気象データ）の管理と提供
- ④研究員の育成

土壌・環境チーム

- ①農産物の安全・安心や環境に優しい農業生産技術の研究
- ②未利用資源の農業活用技術に関する研究
- ③農産物の栄養・機能性成分の調査、分析
- ④肥料取締分析と農業試験検査事務に係る分析
- ⑤IoTなど新技術を活用した野菜類栽培の省力化技術の研究
- ⑥土壌環境の改良に関する研究

病虫害対策チーム

- ①IPMに基づいた病虫害防除技術の開発、実証
- ②難防除病虫害、薬剤耐性菌・抵抗性害虫対策に関する研究
- ③主要農作物の病虫害発生予察に関する研究
- ④国内未発生病害虫に関する植物検疫
- ⑤マイナー作物への適用農薬の登録推進

果菜類チーム

- ①気象変動に対応したトマトのかん水技術と裂果対策
- ②西日本一の夏秋ピーマン産地を支える抵抗性品種の選抜及び栽培技術の確立
- ③イチゴ育種技術の改善と新品種候補の育成
- ④イチゴの高品質安定生産技術の確立

葉根菜類・茶業チーム

- ①根深ネギ、カンショ、サトイモ等の栽培技術に関する研究
- ②カンショの品種選定、ウイルスフリー苗の供給
- ③茶の栽培技術および病虫害防除技術に関する研究
- ④茶の品種選定

2. 試験研究課題

農業研究部(1/2)

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発(イノベーション・流通対策)				
・施設野菜類のハウス内環境制御技術の確立 1) 次世代型土壌水分センサーによる小ネギ栽培の「見える化」技術の構築	土壌・環境	北部振興局	R1~3	県単
・革新的な省力栽培技術の開発 1) マルチコプターを活用した白ねぎ等露地野菜の生育診断技術の開発 2) 労働力不足に対応した施設野菜類の安定生産技術の確立 3) イモ類の産地拡大に向けた省力化技術の確立	土壌・環境 葉根類・茶業 葉根類・茶業	(株)KMT - -	R1~3 R1~4 R1~3	県単 県単 県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・いちごの県オリジナル品種の品種登録と普及 1) 「ベリーツ(大分6号)」の高品質安定生産技術の確立	果菜類	-	R2~4	県単
・いちごの県オリジナル品種の育成 1) イチゴ育種技術の改善と新品種候補の育成	果菜類	-	R1~3	県単
・新需要に対応した品種選抜と加工技術の開発 1) カンショの品種選定	葉根菜類・茶業	農研機構	長期	県単
・市場動向に対応した白ねぎの夏秋期安定出荷技術の確立 1) 根深ネギの大苗育苗技術を利用した新たな栽培体系の確立	葉根菜類・茶業	-	R3~5	県単
・白ねぎの防除技術の確立 1) 黒ボク土壌地域における根深ネギの黒腐菌核病の防除体系の確立	病害虫対策	豊肥振興局	R3~5	県単
・農産物の安全安心に関する研究 1) 県オリジナルイチゴ品種「大分6号」のハダニ類を中心とした主要病害虫の防除体系構築 2) 「ベリーツ(大分6号)」における灰色かび病を主体とした防除体系の構築 3) 安全生産技術に関する研究(夏秋ピーマンにおけるタバコカスカメの活用技術の構築)	病害虫対策 病害虫対策 病害虫対策	地域農業振興課、各振興局 各振興局 各振興局	R1~3 R2~3 R3	県単 県単 県単
・おおばの防除技術の確立 1) 天敵を活用した「おおば」の害虫防除体系の構築	病害虫対策	中部振興局	R3~5	県単
・茶の高品質省力栽培・加工技術の開発 1) 拡大するドリンク茶・碾茶需要に対応した茶生産技術の確立	葉根菜類・茶業	-	R1~3	県単
・新資材による低コスト施肥技術の開発 1) 低コストな混合堆肥複合肥料の開発	土壌・環境	菱東肥料(株)、水田農業グループ	R1~3	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
・果菜類の安定生産技術の開発 1) 気象変動に対応したトマトのかん水技術と裂果対策	果菜類	-	R2~4	県単
・夏秋ピーマンの省力・安定生産技術の開発 1) 西日本一の夏秋ピーマン産地を支える抵抗性品種の選抜及び栽培技術の確立	果菜類	-	R3~5	県単
・高品質・安定生産・省力化のための茶園管理技術の開発 1) 茶試験圃場の育成	葉根菜類・茶業	農研機構	長期	県単、一部国庫
・ウィルスフリー苗の作出 1) イチゴのウィルスフリー苗の育成 2) カンショの茎頂培養によるウィルスフリー苗育成	果菜類 葉根菜類・茶業	- -	長期 長期	県単 県単
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発(地域資源、省エネ・環境対策)				
・環境に優しく地域資源を活用した農業生産技術の開発 1) 農業分野における転炉スラグの活用拡大に関する技術構築 2) 水田畑地化圃場における土壌改良技術の確立	土壌・環境 土壌・環境	豊肥振興局 水田農業グループ	R1~4 R2~4	県単、一部委託 県単

2. 試験研究課題

農業研究部（2 / 2）

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）				
2) 研究分野：Ⅱ基礎調査研究（長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの）				
・ 委託薬剤試験 1) 安全生産技術に関する研究	病虫害対策	各振興局	長期	県単、一部委託
・ マイナー作物農薬残留調査 1) 農薬残留特殊調査（マイナー作物への登録拡大）	病虫害対策	大分県薬剤師会、中部振興局	長期	県単
・ 病虫害発生予察情報（普通作・野菜・果樹・茶） 1) 病虫害発生予察事業	病虫害対策	-	長期	県単、一部国庫
2) チャの主要病虫害防除対策	葉根菜類・茶業	-	長期	県単、一部委託
・ 農業情報の提供（生育状況、気象データ） 1) 農業情報の提供（気象データ）	企画指導担当	水田農業グループ、果樹グループ、花きグループ	長期	県単
・ 土壌情報の活用 1) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	土壌・環境	各振興局	長期	国庫
・ 土壌肥料検査業務 1) 土壌肥料検査業務	土壌・環境	-	長期	県単、一部委託
・ 土壌環境調査の実施による企業参入支援並びにほ場整備等の支援 1) 土壌環境調査の実施による企業参入支援並びにほ場整備等の支援	土壌・環境	-	長期	県単、一部委託

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
令和3年度植物防疫事業成績書	R4.3	70	50
令和2年度農業研究部試験研究成績書	R4.2	416	24

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
祖田嘉教・古閑凜太郎・岡本潤・山崎修一	大分県におけるイチゴ灰色かび病菌の薬剤感受性について（講要）	日本植物病理学会報	88(1)	78

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R3. 11. 24 ～11. 26	日本植物病理学会九州部会第72回講演会	祖田嘉教・古閑凜太郎 ・岡本潤・山崎修一	大分県におけるイチゴ灰色かび病菌の薬剤感受性について
R3. 12. 7	第84回(令和3年度)九州農業研究発表会	山野秀真・玉井光秀	転炉スラグの適用品目の検証 第一報
R3. 12. 7	第84回(令和3年度)九州農業研究発表会	藤谷渉・玉井光秀	Raspberry Pi およびPython 言語を活用した土壌水分測定システムの開発
R3. 12. 7	第84回(令和3年度)九州農業研究発表会	工藤新一・佐伯知勇	マルチコプターを活用した白ねぎ等露地野菜の生育診断技術の開発
R3. 12. 7	第84回九州農業研究発表会・園芸学会九州支部第61回大会	能見伊久絵・山賀陽子 ・佐藤如・池永亜希子	イチゴ‘大分6号’及び‘さがほのか’の親株管理方法がランナー発生及び子苗数に及ぼす影響
R3. 12. 7	第84回九州農業研究発表会・園芸学会九州支部第61回大会	佐藤如・小野紘平	イチゴ‘大分6号’の摘果が収量に影響する要因
R3. 12. 7	第84回九州農業研究発表会・園芸学会九州支部第62回大会	廣末徹・埴谷博一	TSWV 抵抗性ピーマン‘1486’の収量と果実品質
R3. 12. 16	第30回天敵利用研究会沖縄大会	伊藤玲央・山村駿太郎	夏秋ピーマンにおけるタバコカスミカメの放飼方法と防除効果の検討
R4. 2. 7 ～2. 14	第101回九州病害虫研究会研究発表会	伊東拓真・山村駿太郎 ・伊藤玲央・山崎修一	大分県におけるアザミウマ類の薬剤感受性について

（4）研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
「ベリーーツ」一般栽培者向け研修会	R3. 11. 19	農業研究部	2	26
令和3年度農林水産部普及活動・研究成果報告会	R4. 1. 21	大分県庁本館	1	10

4. 研究成果の普及、技術指導

（1）講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 4. 9	茶スマート農業技術に係る研究手法研修	農業研究部	8	
R3. 4. 26	土壌断面調査研修	宇佐市新浜	10	
R3. 5. 12 ～5. 13	課題解決研修（安全農業 1年目）	農業研究部	20	地域農業振興課
R3. 5. 18	専門技術研修（茶）	農業研究部	10	地域農業振興課
R3. 5. 27	専門技術研修（基礎：野菜）	農業研究部	5	地域農業振興課
R3. 5. 28	専門技術研修（基礎・野菜）	農業研究部	15	地域農業振興課
R3. 6. 15	営農初任者・基礎研修	農業研究部	30	大分県農協中央会
R3. 6. 17	専門技術研修（2年目基礎：野菜）	農業研究部	4	地域農業振興課

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 7. 8	農林水産部現場視察研修	農業研究部	15	農林水産企画課
R3. 7. 15	もうかる露地野菜研修	宇佐市安心院	40	園芸振興課(Web併用)
R3. 7. 21	専門技術研修(茶・第2回)	農業研究部	10	地域農業振興課
R3. 7. 21	第53回大分県茶品評会審査会	農業研究部	15	大分県茶業協会
R3. 8. 30	専門技術研修(野菜)	農業研究部	5	地域農業振興課
R3. 9. 3	専門技術研修 (安全農業・病害虫診断実習)	農業研究部	14	地域農業振興課
R3. 9. 10	普通作病害虫診断研修会	農業研究部、豊後大野市内現地圃場	25	地域農業振興課
R3. 9. 15	養液栽培研修会	豊後大野市大野町	30	Web併用
R3. 9. 16	課題解決研修(茶)	農業研究部	10	地域農業振興課
R3. 9. 17	測定機器の使い方研修	農業研究部	3	
R3. 9. 22	豊肥振興局管内白ねぎ現地研修会	豊後大野市大野公民館	40	豊肥振興局
R3. 10. 8	茶スマート農業技術に係る研究手法研修	農業研究部	8	
R3. 10. 19	排水対策現地研修会	大分市上判田	10	
R3. 10. 22	排水不良圃場現地調査研修	豊後高田市	10	
R3. 10. 26	令和3年度土壌肥料・病害虫研修会	エイトピア大野	50	大分県肥料植物防疫協会
R3. 10. 29	専門技術研修(基礎・野菜)	農業研究部	15	地域農業振興課
R3. 11. 9	専門技術研修(基礎・野菜)	農業研究部	15	地域農業振興課
R3. 11. 15	味一ねぎ北部生産流通研究会研修会	宇佐市	15	JAおおいた北部事業部
R3. 11. 18	おおいたAFF女性ネットワークいちごクラブ現地研修会	農業研究部	10	おおいたAFF女性ネットワーク
R3. 11. 19	「ベリーツ」一般栽培者向け研修会	農業研究部	26	園芸振興課
R3. 11. 22	中部振興局管内イチゴ講習会	大分市内現地圃場	30	中部振興局
R3. 11. 26	野菜課題解決研修	豊後大野市三重町	30	地域農業振興課
R3. 11. 30	土壌断面調査研修	臼杵市	15	中部振興局
R3. 11. 30	水田土壌中の可給態窒素含量簡易分析研修会	農業研究部	4	
R3. 12. 3	施肥防除対策研修会	大分県教育会館	150	地域農業振興課、大分県肥料植物防疫協会
R3. 12. 10	課題解決研修 (土づくりと作物生育)	農業研究部	12	地域農業振興課
R3. 12. 10	大分白ねぎ連絡協議会(担い手部会)技術研修	農業研究部	40	大分白ねぎ連絡協議会
R3. 12. 20	課題解決研修 (土壌診断と施肥改善:応用編)	農業研究部	14	地域農業振興課
R3. 12. 22	課題解決研修(茶)	農業研究部	10	地域農業振興課
R4. 1. 13	サツマイモ基腐病対策研修会	臼杵市役所	30	中部振興局

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R4. 1. 14	サツマイモ基腐病対策研修会	豊後大野市大野公民館	20	豊肥振興局
R4. 1. 14	令和3年度北部地域農業青年プロジェクト発表大会	北部振興局	41	北部振興局
R4. 1. 19	専門技術研修（基礎：野菜2年目）	農業研究部	12	地域農業振興課
R4. 3. 2	令和3年度水田畑地化研修会	佐伯市	50	園芸振興課
R4. 3. 25	南部振興局管内イチゴ講習会	JA おおいた佐伯野菜花卉集出荷所、佐伯市蒲江振興局 名護屋出張所	30	南部振興局

（2）受入研修

①長期研修者受け入れ

該当なし

②生産者、団体職員、普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	14	54
団体等職員	10	34
普及指導員	16	52
学生	3	4
児童・生徒	0	0
海外からの視察者	0	0
その他	20	33
計	63	177

※大学

※小中高校

（3）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
農業分野における転炉スラグの活用拡大	転炉スラグの導入により増収や病虫害抑制など効果が見込める圃場への普及を図る。	スラグの課題について現地普及を行うため、普及指導員と協議しながら、東部振興局管内にスナップエンドウの試験区を設置した。
‘ベリーツ’に対する IPM 技術の現地移転	アブラムシ対策（コレナバンカー）等の普及を図る。併せて、他の微小害虫に対する IPM 技術の導入を図る。	現地 6 圃場においてアブラムシ等の微小害虫対策として天敵を導入した防除体系の実証を行った。

II-2 水田農業グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務 技師	業務 技師	事務 補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長			1					1	
管理担当		3						3	
企画指導担当			1					1	
水田農業チーム			8	4				12	
計		3	10	4	0	0	0	17	

(3) 業務

- ① 稲・麦・大豆の品種の育成・選定、栽培技術改善
- ② 稲・麦・大豆の優良種子生産
- ③ 水田畑地化を実現するための技術開発
- ④ 水田大規模経営体の生産性向上を目的とした技術開発

2. 試験研究課題
水田農業グループ

試験研究課題名	担当	連携	研究	予算
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目	チーム	機関	期間	区分
※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発(イノベーション・流通対策)				
・ ICT、RTを活用した生産環境情報収集による低コスト化技術の開発				
1) 水田農業の経営安定化に向けた経営最適化システムの開発	水田農業	振興局	R2~4	県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・ 食味、機能的、安全性などに優れた品種の選定と栽培技術の確立				
1) 水田農業転換期を支える多収型優良品種の導入に向けた栽培法の確立 【外部資金課題名：センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立】	水田農業	振興局	R1~6 【R2~6】	県単 国庫
2) 水稲・麦・大豆の品種選定 【一部令達(地域農業振興課、農地活用・集落営農課)】 【外部資金課題名：センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立】 【外部資金課題名：安全安心な農業用ハイスペックドローン及び利用技術の開発】	水田農業	(国研) 農研機構 農集課、 振興局	R1~6 【R2~6】 【R3~R5】	県単 国庫
3) 地場食品企業とタイアップした県産麦による地域ブランドの強化に向けた技術開発	水田農業	ヤクルト HF(株)、 佐々木食 品工業 (株)、三 和酒類 (株)、宇 佐パン粉 (有)	R3~5	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
水田フル活用に向けた新規需要米				
※、麦・大豆の低コスト安定栽培技術の確立				
1) 大規模経営体に対応した麦類の高速播種システムの確立	水田農業	(株)中 九州クボ タ	R2~4	県単
・ 農地集積や大区画化に対応した水田営農システムの確立				
1) 播種適期の拡大と排水対策による麦類の収量安定生産技術の確立 【外部資金課題名：センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立】	水田農業	振興局	H30~R6 【R2~6】	県単 国庫
・ 帰化植物、薬剤抵抗性等の難防除雑草の防除技術の開発				
1) 生育制御と雑草防除による大豆の高位安定生産技術の確立 【外部資金課題名：農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発】	水田農業	(国研) 農研機 構、振興 局	R2~6	県単 国庫
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発(地域資源、省エネ・環境対策)				
・ 焼酎粕等の未利用資源の活用による地域循環型栽培法の確立				
1) 地場食品企業とタイアップした県産麦による地域ブランドの強化に向けた技術開発(前出) 【繰入金：産業廃棄物税充当事業費】	-	-	-	-
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・ 主要農作物(水稲、麦類、大豆)の優良種子管理				
1) 主要農作物等種子対策事業	水田農業	農集課、 振興局	長期	県単
・ 水稲、麦類、大豆の作柄判定調査の情報提供による生産指導支援				
1) 水稲、麦類、大豆の作柄判定調査	水田農業	農集課、 振興局	長期	県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
水稻早生品種「なつほのか」栽培のポイント	R4.3	6	2,400

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
安藤広将・墨谷荘平・平野貴弘・山本真梨子	大分県平坦部における飼料用米新品種「みなちから」の特性	日本作物学会九州支部会報	第87号	13-14
山本真梨子・吉良知彦・河野礼紀・安藤広将・近乗偉夫・大窪恵美子・平野貴弘・内田多香子・墨谷荘平・柿原千代文	大分県における醤油用コムギ「はるみずき」の特性とNDVI および葉色による簡易な収量予測方法の検討	日本作物学会九州支部会報	第87号	24-26
河野礼紀・清田梨華・柿原千代文・山本真梨子・近乗偉夫	オオムギ生育初期の牛ふん堆肥がその生育および収量に与える影響	日本作物学会九州支部会報	第87号	27-29

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R3.12.7	九州農業研究第84回発表会	安藤広将・白石真貴夫・清水康弘・墨谷荘平	大分県における水稻早生品種「なつほのか」の特性
R3.12.7	九州農業研究第84回発表会	平野貴弘・山本真梨子・大窪恵美子・吉良知彦・安藤広将・内田多香子	大分県における味噌加工用ハダカムギ品種「ハルアカネ」の特性
R3.12.7	九州農業研究第84回発表会	清田梨華・河野礼紀・香月望・藤谷渉・柿原千代文・山本真梨子・近乗偉夫	麦生育期間中の牛糞堆肥連年施用が後作大豆におよぼす影響

(4) 研究成果発表会等

該当なし

5. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 4. 20	水稲「なつほのか」採種圃栽培講習会	宇佐市	10	JA、北部振興局
R3. 5. 18	水稲「なつほのか」栽培講習会	竹田市	12	県立久住高原農業高校
R3. 7. 14	水稲「なつほのか」導入技術検討会	竹田市	49	JA、集荷団体、農大、豊肥振興局、地域農業振興課、水田畑地化・集落営農課
R3. 7. 26	水稲「なつほのか」導入技術検討会	宇佐市	46	JA、集荷団体、三和酒類(株)、農大、北部振興局、水田畑地化・集落営農課
R3. 8. 20	水稲「なつほのか」研修会	日出町	25	JA、東部振興局、水田畑地化・集落営農課
R3. 8. 24	水稲「なつほのか」研修会	竹田市	36	JA、豊肥振興局、地域農業振興課、水田畑地化・集落営農課
R3. 8. 27	水稲「なつほのか」研修会	日田市	45	JA、西部振興局、地域農業振興課、水田畑地化・集落営農課
R3. 8. 30	水稲「なつほのか」研修会	宇佐市	77	JA、北部振興局、地域農業振興課、水田畑地化・集落営農課
R3. 9. 15	水稲「なつほのか」研修会	国東市	55	JA、東部振興局、地域農業振興課、水田畑地化・集落営農課
R3. 9. 15	小麦新品種「はるみずき」研修会	中津市	48	JA、北部振興局、水田畑地化・集落営農課
R3. 11. 26	水稲「なつほのか」の令和4年度本格導入に向けた検討会	水田農業グループ	45	JA、集荷団体、全振興局、地域農業振興課、水田畑地化・集落営農課
R3. 11. 29	水稲「なつほのか」説明会	由布市	65	JA、由布市、中部振興局
R3. 12. 10	水稲「なつほのか」説明会	国東市	31	JA、国東市、東部振興局、地域農業振興課
R4. 3. 8	農事研修会	大分市	40	大分県肥料商業組合 大分県農薬販売協同組合
R4. 3. 11 3. 14	水稲採種栽培研修会	玖珠町	10	JA

(2) 受入研修

①長期研修者受入

該当なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	0	0
団体等職員	0	0
普及指導員	0	0
学生	0	0
児童・生徒	1	2
海外からの視察者	0	0
その他	0	0
計	1	2

※大学

※小中高校

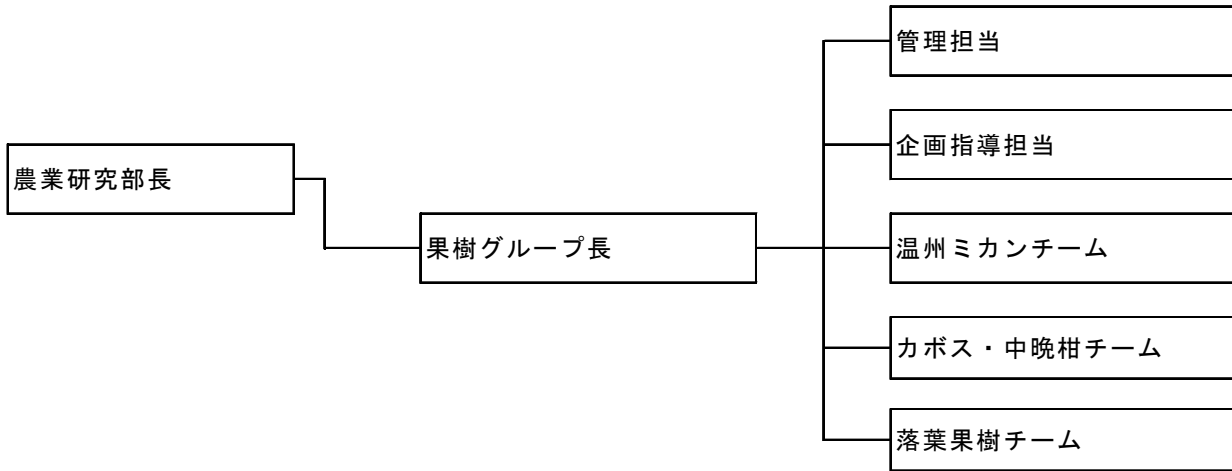
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
水稲早生品種「なつほのか」の実証圃設置および栽培指導	現地実証圃での栽培技術指導を行い、令和4年度から同品種の本格導入を図る。	県下全域 22箇所 7.9ha の現地実証および巡回指導を行い、栽培暦、栽培マニュアルを作成した。

II-3 果樹グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織	職種		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
	事務	技術						
グループ長		1					1	
管理担当	1						1	
企画指導担当		1					1	
温州ミカンチーム		4		1			5	
カボス・中晩柑チーム		4		1			5	
落葉果樹チーム		5	1		1	1	8	
計	1	15	1	2	1	1	21	

(3) 業務

- ①温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ②カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ③ナシ・ブドウ等の優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ④ハウスミカン、施設中晩柑に関する試験研究
- ⑤カンキツ及び落葉果樹の病害虫に関する試験研究
- ⑥生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題

果樹グループ

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発(イノベーション・流通対策)				
・ ハウスみかんの早期成園化及び高生産技術の確立 1) ハウスミカンの着花安定と垣根仕立て栽培の低樹高省力栽培技術の確立	温州ミカン		R3~5	県単
・ なしの早期成園化及び高生産技術の確立 1) ナシの作業性に優れた「改良流線型仕立」栽培法と側枝発生促進技術の開発	落葉果樹		R2~4	県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・ かんきつ品種の育成と栽培技術の確立 1) 県南地域に適した中晩柑の高品質生産技術の確立及びオリジナル品種の開発	かんきつ・中晩柑		R2~4	県単
・ かんきつ優良品種の選定と栽培技術の確立 1) 「開花期加温栽培」による「不知火」、「あすみ」の高糖度果実安定栽培技術の開発 2) 「おおいた早生」のリリース出荷を可能にする無加温栽培と樹上完熟栽培技術の開発 3) カンキツ系統適応性検定試験	温州ミカン 温州ミカン 温州ミカン かんきつ・中晩柑		R1~3 R1~3 R1~3 R1~3	県単 県単 県単 県単
・ なし極早生品種の育成と栽培技術の確立 1) 落葉果樹の系統適応性検定試験	落葉果樹		R1~3	県単
・ 特色あるワイン専用品種の育成及び栽培技術の確立 1) 落葉果樹の系統適応性検定試験	落葉果樹	三和酒類(株)	R1~3	県単
・ 落葉果樹の優良品種の選定と栽培技術の確立 1) ブドウの高収量栽培、早期成園化技術と新品種の安定生産技術の確立 2) 落葉果樹の系統適応性検定試験	落葉果樹 落葉果樹		R2~4 R1~3	県単 県単
・ かぼすの周年安定出荷のための栽培及び貯蔵技術の確立 1) カボス新品種導入による周年出荷の安定	かんきつ・中晩柑		R1~3	県単
・ 果樹の病害虫防除体系の確立 1) 果樹の病害虫防除並びに植物生長調節剤に関する試験	果樹グループ		R1~3	県単・国庫
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
・ ハウスみかんの省エネ及び高収益栽培技術の確立 1) ハウスミカンの着花安定と垣根仕立て栽培の低樹高省力栽培技術の確立(再掲)	温州ミカン		R3~5	県単
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発(地域資源、省エネ・環境対策)				
・ 温暖化に適応可能な新たな果樹品目の探索と栽培技術の確立 1) カンキツ系統適応性検定試験	温州ミカン		R1~3	県単
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・ 農業情報の提供	落葉果樹		長期	県単
・ 優良品種系統の原母樹の確保と優良種木の管理	落葉果樹		長期	県単
・ 地元ゆかりの動植物の保存	落葉果樹		長期	県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
令和2年度大分県農林水産研究指導センター 果樹グループ試験研究年報 CD 版	R3. 11. 26	68	120 枚

（2）学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻（号）	掲載頁
釘宮伸明	「シャインマスカット」の食感改善技術	福岡の果樹	2021.7-8号	27-29
渡邊久能(共著)	Control efficacy of the systemic acquired resistance (SAR) inducer acibenzolar-S-methyl against <i>Venturia nashicola</i> in Japanese pear orchards	Journal of General Plant Pathology	87号	307-315
檜原稔（共著）	Citronella oil improves the efficacy of trap surveys of the Japanese orange fly, <i>Bactrocera tsuneonis</i> (Diptera: Tephritidae)	Applied Entomology and Zoology	Volume57 Number1	37-43
松原公明	屋根かけ完熟ミカン栽培	農業技術体系果樹編（農山漁村文化協会）	編集中	編集中

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R3.12.7	第84回九州農業研究発表会 果樹部会（園芸学会九州支部）	小野祥子	「おおいた早生」のリレー出荷を可能にする無加温ハウス栽培技術の開発
R3.12.7	第84回九州農業研究発表会 果樹部会（園芸学会九州支部）	五島遼太郎	マルドリ方式によるカンキツ「不知火」の完熟栽培技術
R4.1.25～1.26	令和3年度九州沖縄農業試験研究推進会議 果樹推進部会	小野祥子	無加温ハウス栽培ウンシュウミカン「おおいた早生」の早期出荷に向けた温度管理
R4.3.17	令和3年度九州沖縄農業試験研究推進会議 果樹推進部会研究成果・技術シーズ発表会	笠木啓喜	大分県におけるニホンナシ産地維持のための「流線型仕立栽培」の普及について
R4.3.29	日本植物病理学会大会	渡邊久能（共同研究）	ナシ黒星病菌におけるアゾキシストロビン感受性の違いと cytb 遺伝子のシークエンス

（4）研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
園芸学会九州支部	R3.12.7	Web開催	2	-
果樹推進部会	R4.1.25～1.26	書面会議	1	-
研究成果・技術シーズ発表会	R4.3.17	Web開催	1	-

4. 研究成果の普及、技術指導

（1）講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3.4.16	新品種現地検討会	杵築市	5	JA おおいた
R3.5.25	ミカンバエ防除対策推進会議	中小企業会館	16	地域農業振興課

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 6. 2	農業大学校果樹専攻学生研修	カボス・中晩柑チーム	4	農業大学校
R3. 6. 4	杵築市柑橘振興協議会幹事会	杵築市	8	杵築市
R3. 6. 8	なし流線型仕立栽培研修会	日田市、中津市、由布市	20	地域農業振興課
R3. 6. 23	津久見市柑橘組合長会議	津久見市民会館	20	津久見市
R3. 7. 5	若手生産者ソイマスカット研修会	宇佐市、豊後高田市	30	園芸活性化協議会
R3. 7. 8	臼杵市みかん園防除対策班会議	臼杵市役所	10	臼杵市
R3. 7. 14	若手生産者なし流線型仕立研修会	由布市	30	園芸活性化協議会
R3. 7. 16	津久見市シトラススクール	津久見市民会館	30	津久見市、中部振興局
R3. 7. 16	カボス貯蔵方法検討会	県南柑橘選果場	6	地域農業振興課、中部振興局
R3. 8. 17	普及員専門技術研修	温州ミカンチーム	13	地域農業振興課
R3. 9. 1	カボス貯蔵方法検討会	県南柑橘選果場	4	地域農業振興課
R3. 9. 8	カボス品種紹介	カボス・中晩柑チーム	2	おおいたブランド推進課
R3. 10. 4	みかん園検査識別研修会	大分県庁	15	地域農業振興課
R3. 10. 4	ミカンハエ種群に係る対策説明会	大分県庁	15	地域農業振興課
R3. 10. 13	「大分果研6号」品種研修会	カボス・中晩柑チーム	30	地域農業振興課
R3. 10. 27	カボス貯蔵方法検討会	カボス・中晩柑チーム	4	中部振興局
R3. 10. 29	キウイフルーツ棚協議	国東市	6	大分大学、センター本部
R3. 11. 12	南部こども園収穫体験	温州ミカンチーム	30	南部こども園
R3. 11. 24	なしせん定研修会	由布市	10	地域農業振興課
R3. 12. 3	なし流線型仕立せん定研修会	日田市	40	園芸活性化協議会
R3. 12. 23	果樹病害虫防除暦検討会	JA おおいた本店	30	園芸活性化協議会
R3. 12. 24	中晩柑有望品種に関する研修	カボス・中晩柑チーム	3	佐伯市
R4. 1. 11	ファーマーズスクール研修	カボス・中晩柑チーム	8	東部振興局
R4. 2. 1	杵築市ファーマーズスクール座学講習	杵築市	8	JA おおいた、東部振興局
R4. 2. 16	普及員専門技術研修	カボス・中晩柑チーム	7	地域農業振興課
R4. 2. 18	ミカンバエ防除対策関係者会議	リモート会議	-	地域農業振興課
R4. 3. 7	普及員専門技術研修	温州ミカンチーム	13	地域農業振興課

（２）受入研修

①長期研修者受入

該当なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	48	97
団体職員	29	81
普及指導員	35	154
学生	7	39
児童・生徒	1	25
海外からの視察者	0	0
その他	5	5
計	125	401

※大学

※幼小中高校

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
ブドウの高収量栽培、早期成園化技術と新品種の安定生産技術の確立	大量貯蔵での貯蔵リスクを低減させることで、貯蔵量の拡大を目指す。	今年度は春先の低温や盆前後の長雨の影響で「シャインマスカット」の品質が低下したため、貯蔵量は伸び悩んだが、貯蔵ロス(販売不可果実)の発生を5%以内に抑えた。 ・大規模貯蔵庫3カ所(目標3カ所) ・貯蔵量1.6t(目標3t) ・貯蔵ロスの発生3.7%(目標5%以内)

Ⅱ－4 花きグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務 技師	業務 技師	事務 補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長	管理担当	1	1				1	1	
企画指導担当	企画指導担当		1				1	1	
花きチーム	花きチーム		7	2		1		10	
	計	1	9	2	0	1	1	14	

(3) 業務

- ①花きの栽培および病害虫に関する研究
- ②バイオテクノロジーを活用した品種・農業技術の開発
- ③花きの研究成果の現地普及
- ④優良種苗の供給
- ⑤花き指導者、生産者に対する研修および現地指導

2. 試験研究課題

花きグループ

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発(イノベーション・流通対策)				
・高収益栽培技術の開発 1) 芽摘みの省力化によるキクの効率的生産体制の確立	花き	イノテオ アグリ (株)他	R1~3	国庫・県単
・オリジナル品目の開発 1) 水田畑地化に対応したホオズギ栽培体系の確立	花き		R2~4	県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・難防除病害虫防除技術 1) 花き類における省力的防除技術体系の構築	花き		R3~5	県単
・新規、高付加価値品目や新たな品種の開発 1) 新しい生活様式に対応した新規花き品目の探索と品目選定	花き		R3~5	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
・統合環境制御技術の開発とマニュアル化 1) スイートピーの年内収量向上対策と省力化品種の育成	花き		R1~3	県単
・地域特性に即した品種選定と栽培技術確立 1) トルコギキョウ夏秋産地拡大のための栽培技術の確立	花き		R2~4	
・新規、高付加価値品目や新たな品種の開発 1) 県育成品種識別技術の確立と花きオリジナル品種の育成(バイオ)	花き		R2~4	県単
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・戦略品目や推進品目の種苗管理供給及び系統選抜 1) イチゴ茎頂培養によるウイルスフリー苗の養成 2) 優良種苗の供給	花き 花き		長期 長期	県単 県単

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
令和2年度花きグループ試験成績書	R4.3.31	135	HP掲載

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
岡本 潤・他	Two new records of powdery mildews (Erysiphaceae) from Japan: Erysiphe actinidiicola sp. nov. and Erysiphe sp. on Limonium tetragonum	Mycoscience	62 (3)	198-204

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R4.1.26	令和3年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会 花き成績設計検討会	渡邊英城	輪ギクの芽摘み作業の省力化に向けた技術開発(農薬を用いたわき芽抑制手法の開発)
R4.1.26	令和3年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会 花き成績設計検討会	宮崎麻里子・志賀 灯	キルパー液剤によるトルコギキョウ斑点病防除

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R4. 1. 26	令和3年度九州沖縄農業試験研究推進会議野菜・花き推進部会 花き成績設計検討会	志賀 灯	トルコギキョウの夏秋産地における適品種の選定
R4. 2. 7	九州病害虫研究会	宮崎麻里子・岡本 潤	ホオズキにおけるタバコノミハムシに対する有効薬剤の探索

（４）研究成果発表会

該当なし

4. 研究成果の普及、技術指導

（１）講習会、研修会の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 4. 12	ヤマジノギク挿し芽研修	花きグループ	10	地域農業振興課
R3. 4. 27	トルコギキョウ定植指導	久住高原農業高校	10	久住高原農業高校
R3. 4. 28	染めハボタン研修会	花きグループ	15	園芸振興課、地域農業振興課
R3. 5. 21	センリョウ栽培技術講習	花きグループ	5	中部振興局
R3. 6. 8	トルコギキョウ栽培講習	久住高原農業高校	4	久住高原農業高校
R3. 6. 15	スプレーギク栽培管理講習	花きグループ	3	中部振興局
R3. 6. 29	花き育苗講習	花きグループ	5	東部振興局、JA おおい
R3. 7. 6	トルコギキョウ栽培講習	久住高原農業高校	4	久住高原農業高校
R3. 7. 8	温泉熱利用研究	花きグループ	12	別府大学
R3. 7. 13 7. 20	トルコギキョウ栽培講習	久住高原農業高校	4	久住高原農業高校
R3. 7. 29 ～7. 30	花き専門技術研修	花きグループ	6	地域農業振興課
R3. 8. 2	花き専門技術研修(病害虫)	花きグループ	6	地域農業振興課
R3. 8. 5	温泉熱利用研究	花きグループ	7	大分上野丘高校
R3. 8. 5	トルコギキョウ栽培研修会	久住高原農業高校	26	久住高原農業高校
R3. 8. 6 8. 19	スプレーギク栽培管理講習	花きグループ	3	中部振興局
R3. 8. 7 8. 10	トルコギキョウ栽培講習	久住高原農業高校	4	久住高原農業高校
R3. 9. 16	ハボタン研修会	花きグループ	20	園芸振興課
R3. 10. 7	ヤマジノギク研修会	花きグループ	22	地域農業振興課、JA おおい、全農
R3. 10. 13	トルコギキョウ播種指導	花きグループ	6	久住高原農業高校
R3. 10. 19	校外学習	花きグループ	5	別府市立朝日中学校
R3. 10. 26	ハボタン染色研修会	花きグループ	10	園芸振興課
R3. 10. 29	スプレーギク栽培管理講習	花きグループ	3	中部振興局
R3. 11. 5	スプレーギク栽培管理講習	花きグループ	3	豊肥振興局
R3. 12. 6	別府花き市場生産組合技術研修	花きグループ	10	東部振興局

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 12. 8	温泉熱利用研究	花きグループ	3	新産業振興室
R3. 12. 9 ～12. 10	花き専門技術研修	花きグループ	6	地域農業振興課
R3. 12. 16	温泉熱利用研究	花きグループ	10	別府大学
R3. 12. 24	温泉熱利用研究	花きグループ	1	筑波大学附属中学校
R3. 12. 8	温泉熱利用研究	花きグループ	3	新産業振興室
R4. 1. 25	トルコギキョウ品種検討会	中津市	5	北部振興局
R3. 1. 28	スプレーギク栽培管理講習	花きグループ	3	中部振興局
R4. 2. 28	トルコギキョウ栽培検討会	花きグループ	5	地域農業振興課
R4. 3. 15	プリンセスリーフ研究会検討会	花きグループ	25	園芸活性化協議会

（2）受入研修

①長期研修者受け入れ

該当なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	9	50
団体等職員	3	7
普及指導員	6	28
学生	2	22
児童・生徒	5	33
海外からの視察者	0	0
一般来場者	406	1,535
その他	2	7
計	433	1,682

※大学

※小中高校

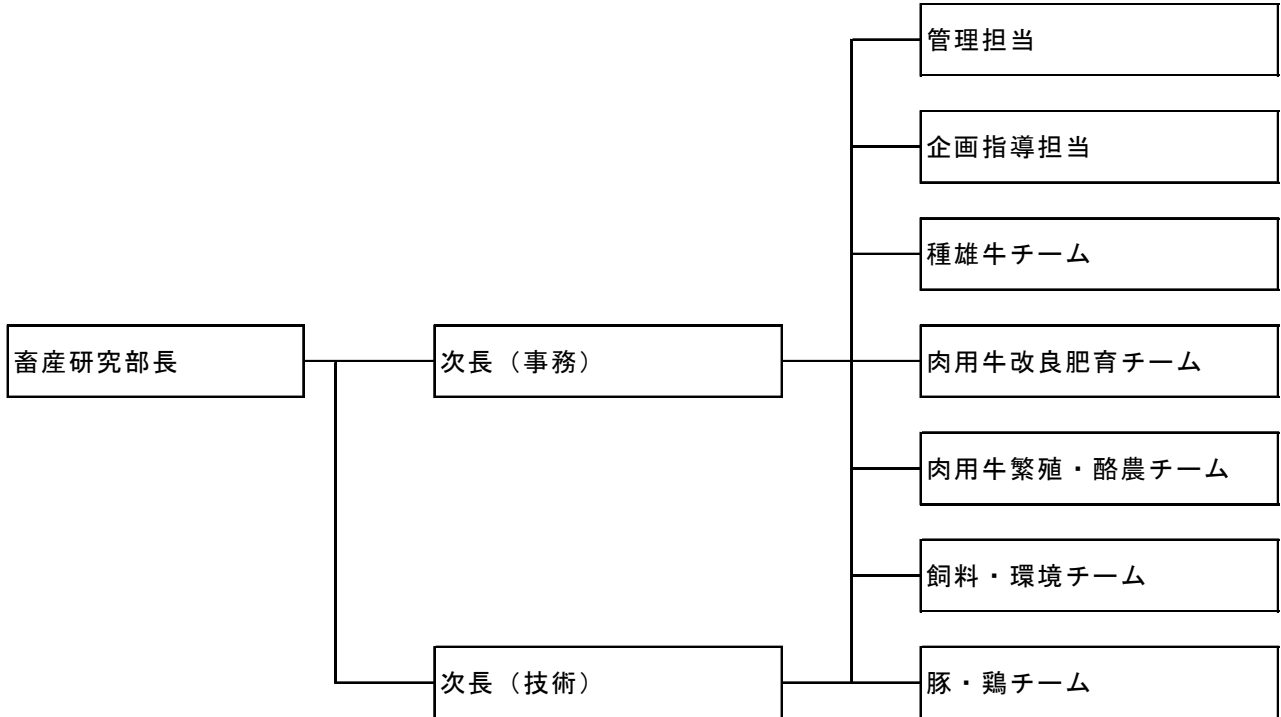
（3）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
スイートピーの優良系統の現地普及	花きグループで育成した優良系統を普及拡大し、生産安定と品質向上を図る。	花きグループでの育成系統を県内主要産地に導入した。

II-5 畜産研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	農業技術員	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
部	長		1					1	
次	長	1	1					2	
管	理	3						3	
企	画		2					2	
種	雄		2	1	2	1		6	
肉	用		4	2		2		8	
肉	用		5	6	1	2		14	
飼	料		4	3				7	
豚	・		6	2	3	1		12	
計		4	25	14	6	6	0	55	

(3) 業務

- ①肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給
- ②肉用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ③乳用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ④牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策
- ⑤豚の育種、飼養技術並びに精液供給
- ⑥家きんの育種並びに飼養技術

2. 試験研究課題

畜産研究部

試験研究課題名	担当	連携	研究	予算
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目	チーム	機関	期間	区分
※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発(イノベーション・流通対策)				
・ 肉用牛・酪農の生産性向上と粗飼料基盤確立のための技術開発 1) 周年親子放牧に適した牧草種による周年放牧の実証	飼料・環境		R3~5	県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・ 性別別精液の普及技術の開発 1) 性別別精液の普及に向けた精子運動性及び受精能評価指標の確立	肉用牛繁殖・酪農・豚・鶏		R2~5	県単
・ 子牛の哺育・育成技術の開発 1) 早期出荷のための子牛育成及び肥育技術の確立	肉用牛繁殖・酪農		R3~5	県単
・ 豚の受胎率向上技術の開発 1) LED光線管理による効率的豚人工授精法の確立	豚・鶏	広島大学	R1~3	県単
・ 豚の低コスト飼料給与技術の開発 1) 肥育豚への粃米サイレージおよび未利用資源給与技術の確立	豚・鶏		R3~5	県単
・ 「おおいた冠地鶏」等鶏の改良及び飼養管理技術 1) 遺伝子解析を活用した「おおいた冠地鶏」の増体性および食味改善技術の確立	豚・鶏		R3~5	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
・ 牛の受胎率向上技術の開発 1) 生産者の所得向上を目指した雌雄産み分け技術の確立	肉用牛繁殖・酪農・豚・鶏	広島大学	H30~R3	県単
IV 地域資源の活用と環境対策のための技術開発(地域資源、省エネ・環境対策)				
・ 低コスト経営のための未利用資源を活用した飼料開発 1) 繊維を主体とした麦焼酎粕固形部(生へこ)の利用技術の確立	飼料・環境		R3~5	県単
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・ 優秀種雄牛の造成 1) 種雄牛検定 (1) 直接法 (2) 現場後代法 2) 大分県種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析及び効果検証	肉用牛改良・肥育 肉用牛改良・肥育 肉用牛改良・肥育	家畜改良センター、関係各県	長期 長期 長期	県単 県単 県単
・ 牧草、飼料作物の優良品種・系統の選定 1) 牧草類・飼料作物の奨励品種選定試験 (1) とうもろこし (2) イタリアンライグラス (3) ソルガム (4) オーチャードグラス (5) ペレニアルライグラス	飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境 飼料・環境	九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県 九州沖縄農研、九州各県	長期 長期 長期 長期 長期	県単 県単 県単 県単 県単
・ 高品質豚生産のための種豚改良 L・W・Dの系統維持・増殖 1) 原種豚の改良維持及び増殖 (1) ランドレース種の系統維持及び増殖 (2) 大ヨークシャー種の改良増殖 (3) デュロック種の能力維持	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏		長期 長期 長期	県単 県単 県単
・ 原種禽の系統維持及び増殖 1) 原種禽の系統維持及び増殖 (1) 「豊のしゃも」原種鶏 (2) 「おおいた冠地どり」原種鶏 (3) 「おおいた烏骨鶏」原種鶏	豚・鶏 豚・鶏 豚・鶏	熊本農研、宮崎畜試	長期 長期 長期	県単 県単 県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
2021 大分県黒毛和種種雄牛	R3. 6. 1	34	1,000

畜産研究部監修

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

該当なし

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R3. 11. 11	令和3年度大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会及び研修会	衛藤央好	周年親子放牧導入マニュアルの策定
R3. 11. 11	令和3年度大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会及び研修会	原彰宏	オレイン酸生成能力のゲノム育種価評価の確立
R3. 11. 11	令和3年度大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会及び研修会	内村誠	近年の畜産研究部における和牛短期肥育試験に関する報告とこれからの肥育試験設計に関する一考察
R3. 11. 11	令和3年度大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会及び研修会	稲垣望	未利用資源（モヤシサイレージ）を利用した豚の低コスト肥育技術の確立
R3. 12. 7 ～12. 8	第84回九州農業研究発表会	村上敦哉	ウシの分娩感覚の短縮に向けた発情探知システムの開発
R3. 12. 7 ～12. 8	第84回九州農業研究発表会	稲垣望	未利用資源（モヤシサイレージ）を利用した豚の低コスト肥育技術の確立

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和3年度 大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会 ※再掲：(3) 研究会、学会等での発表	R3. 11. 11	県庁舎新館	4	100

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア 講習会、研修会等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 6. 24	東部地域肥育法人研修会	杵築市内	25	東部振興局
R3. 7. 6	大分畜産Net 鼓動総会(情報提供)	大分市内	50	大分畜産Net 鼓動
R3. 7. 16	課題解決研修会	畜産研究部	20	地域農業振興課
R3. 12. 2	大分畜産Net 鼓動スキルアップ研修会(情報提供)	大分市内	50	大分畜産Net 鼓動
R3. 12. 15	佐伯市和牛改良組合研修会	佐伯市内	20	佐伯市和牛改良組合

イ 畜産共進会

該当なし

ウ 精液譲渡

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 4. 5	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 4. 8	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 4. 14	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R3. 4. 16	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	30	
R3. 4. 26	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 5. 10	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R3. 5. 14	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 5. 18	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 5. 19	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 6. 3	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 6. 8	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 6. 14	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R3. 6. 23	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R3. 6. 25	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 7. 6	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R3. 7. 14	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 7. 16	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 7. 19	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 8. 3	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	20	
R3. 8. 10	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	20	
R3. 8. 12	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R3. 8. 24	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R3. 8. 26	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 9. 6	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R3. 9. 13	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 9. 15	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 9. 16	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 10. 4	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 10. 8	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 10. 13	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 10. 22	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R3. 10. 26	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 11. 5	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R3. 11. 10	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 11. 15	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R3. 11. 16	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R3. 12. 3	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R3. 12. 7	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	20	
R3. 12. 13	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R3. 12. 23	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	20	
R4. 1. 7	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R4. 1. 14	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R4. 1. 17	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R4. 1. 18	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R4. 2. 2	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R4. 2. 7	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	
R4. 2. 10	北部地域精液譲渡	宇佐家畜保健衛生所	10	
R4. 2. 22	豊肥・南部地域精液譲渡	豊後豊肥市場	30	
R4. 2. 24	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R4. 3. 7	中央地域精液譲渡	由布市畜産センター	20	
R4. 3. 14	竹田市精液譲渡	竹田市畜産センター	30	
R4. 3. 15	東部地域精液譲渡	県酪日出支所	10	
R4. 3. 16	西部地域精液譲渡	玖珠家畜保健衛生所	30	

（２）受入研修

① 長期研修受け入れ

対象者	所属	研修内容	期間
研修生 2 名	県内	大分県立農業大学校 就農準備研修（畜産コース）	R3. 4. 9～R4. 3. 8
受講者 25 名	県内	家畜人工授精（牛）講習会	R3. 11. 1～R3. 12. 6

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数	
生産者	2	27	※11/16 朝地、12/14 東部
団体等職員	0	0	
普及指導員	0	0	
学生	3	5	※大学
児童・生徒	1	1	※小中高校
海外からの視察者	0	0	
その他	0	0	
計	6	33	

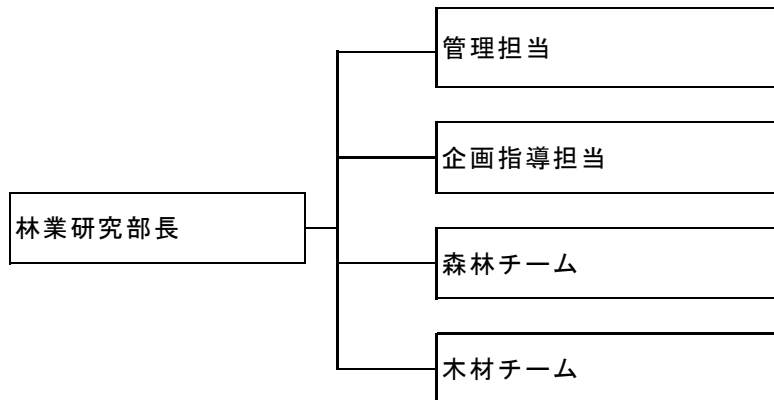
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

該当なし

Ⅱ－6 林業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務 技師	農業 技術員	事務 補佐	計	備考
		事務	技術						
部	長		1					1	
管	担	2						2	
企	担		2					2	
森	一		6			1		7	
木	一		6					6	(兼)産業科学技術センター 製品開発支援担当主幹研究 員1名
	計	2	15	0	0	1	0	18	

(3) 業務

- ① 育種・育林の技術開発に関する試験研究
- ② 環境を守る森林整備に関する試験研究
- ③ 県産材の需要拡大に関する試験研究

2. 試験研究課題

林業研究部

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・ 造林樹種における優良品種の選抜 1) スギ・ヒノキサシ木苗の生産性向上に関する研究 2) 大分県に適した早生樹の苗木生産・育林技術の開発	森林 森林	- -	R3~5 R3~5	県単 県単
3) エリートツリー等の原種増産技術の開発事業	森林	(国研)森林研究・整備機構、他	R3	受託
4) 低コスト造林推進に向けたスギ優良品種の材質特性の解明	木材	-	R3~5	県単
・ 低コスト育林技術の開発・実証 1) 疎植造林による育林施業体系の開発	森林	-	R2~6	県単
2) 成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発	森林	(国研)森林研究・整備機構、他	H30~R4	受託
・ スギ大径材の効率的な製材・乾燥技術の開発 1) 大径材の多様な利活用に向けた乾燥技術の開発 2) 県産スギ大径材の有効利用技術の開発 3) 長大スパンに対応する接着重ね材の開発 -大径材等の新たな用途拡大-	木材 木材 木材	- - -	R3~5 R1~3 R2~4	県単 県単 県単
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・ スギ雄花着生状況調査(花粉飛散量予測と雄花生産量の把握) 1) スギ花粉発生源地域推定事業	森林	-	R3	受託 [全林協]

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
令和2年度林業研究部年報(第63号)	R3.9.17	72	200
林研だより(第83号)	R4.2.1	8	HP
研究報告第17号「スギ推奨品種さし木苗の増産に関する研究」	R4.1.31	15	HP
研究報告第18号「ヒノキ第一世代精英樹クローン林分の特性-次世代の森林づくりに向けたヒノキ精英樹の選抜-」	R4.1.31	23	HP

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
豆田俊治	知識ゼロから学ぶ国産材まるごと超入門《後編》 「5 大径材活用に不可欠な心去り材の乾燥Q&A」	新建ハウジング別冊付録(ワンテーママガジン)	2021年11月 (2021)	80-82
山本幸雄・末光良一・前原礼明	「品質・性能の確かな人工乾燥材の安定供給に向けた適正乾燥条件の検討」報告書 (令和2年度 合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策のうちCLT建築実証支援事業のうちCLT等木質建築部材技術開発・普及事業)	一般社団法人全国木材組合連合会	令和4年2月	99-115

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R3. 10. 29 ～11. 5	第77回九州森林学会大会	松本純・青田勝	スギ在来品種、特定母樹、エリートツリーの初期成長
R4. 3. 15	第72回日本木材学会大会	前原礼明・山本幸雄・城井秀幸	スギ製材品の縦圧縮強度における寸法効果
R4. 3. 27 ～3. 29	第133回日本森林学会大会	青田勝・松本純	ツリーシェルターを途中で外したコウヨウザンの成長動態
R4. 3. 27 ～3. 29	第133回日本森林学会大会	松本純・青田勝	14年生スギ密度試験区における樹冠の状況

（4）研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和3年度 農林水産研究指導センター 林業研究部 研究発表会	R4. 2. 17	Web開催	3	90

4. 研究成果の普及、技術指導

（1）講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 5. 17	おおいた林業アカデミー 「木材の利用について」	大分県林業研修所	7	(公財)森林ネットおおいた
R3. 5. 25 6. 1 6. 8	大分県立農業大学校講義	大分県立農業 大学校	53	大分県立農業大学校
R3. 6. 4	おおいた林業アカデミー 「林業研究部の概要及び森林林業・木材利用に関する研究について」	大分県林業研修所	9	(公財)森林ネットおおいた
R3. 6. 11	林業普及技術等習得研修 (林業一般)	大分県庁舎	4	大分県
R3. 7. 12 7. 19	試験研究機関における実践研修	林業研究部	11	大分県
R3. 7. 14	林業全般基礎研修Ⅱ（前期）	林業研究部	9	大分県
R3. 8. 4	大分をつむぎ、つなぐキャリア フォーラム	大分県庁舎	14	大分県
R3. 10. 13	日本木材学会 地域木材産業研究会/ 木材強度・木質構造研究会 2021 秋季合 同講演会「大分県の中・大規模木造建 築」	Web開催	92	(一社)日本木材学会 地域 木材産業研究会
R3. 10. 14	日田林工高等学校インターンシップ 研修	林業研究部	2	大分県立日田林工高等学校
R3. 10. 25	フォレストワーカー集合研修(3年目) 「木材の特性」	大分県林業研修所	12	(公財)森林ネットおおいた
R3. 10. 27	苗木生産初心者研修	大分県林業研修所	6	(公財)森林ネットおおいた
R3. 11. 13	第21回豊かな国の森づくり大会 「炭のはなし、花炭づくり」 「森の働き・木の素材を知る」	県民の森 「平成森林公園」	97	大分県

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 11. 11	林業全般高度化研修	大分県庁舎	15	大分県
R3. 11. 26	林業種苗生産事業者講習会	大分県林業会館新館	27	大分県
R3. 12. 13	広域普及指導員プロジェクト研修「木造枠組壁工法におけるJASについて」	株式会社オーダーウッド(中津市)	16	大分県
R4. 3. 16	地域材需要拡大研修会	林業研究部	9	北部地区森林・林業活性化協議会

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	16	19
団体等職員	80	263
普及指導員	2	31
学生	0	0
児童・生徒	3	56
海外からの視察者	0	0
その他	53	338
計	154	707

※大学

※小中高校

③ 企業支援

区分	件数	金額(円)
依頼試験	28	1,742,138
機械貸付	298	401,090
技術相談	131	-
企業訪問	44	-
計	501	2,143,228

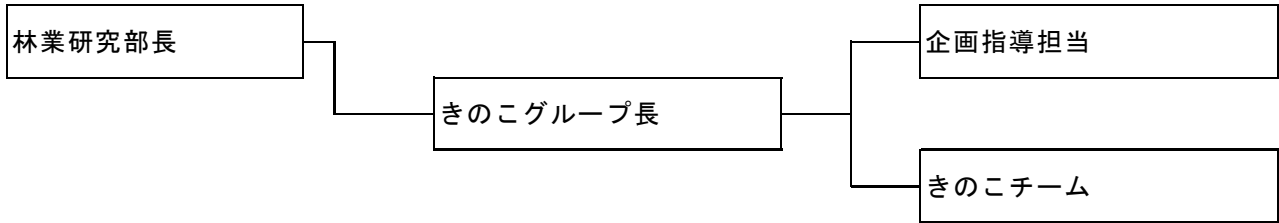
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

該当なし

II-7 きのごグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織	職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
		事務	技術						
グループ長			1					1	
企画指導担当			3					3	広域普及指導員2名
きのごチーム			5			1		6	
計		0	9	0	0	1	0	10	

(3) 業務

- ①原木シイタケ栽培技術の改善・開発
- ②菌床栽培技術の改善・開発
- ③シイタケの機能性に関する研究
- ④きのご類の品種改良・開発
- ⑤有用きのご類の遺伝子収集及び保存
- ⑥研究成果の普及及び栽培技術指導
- ⑦病虫害等の防除技術の普及
- ⑧新規参入者の研修・技術指導
- ⑨栽培技術情報の収集・管理と情報発信

2. 試験研究課題
きのこグループ

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発				
・きのこ類のブランド化に向けた品種開発 1) 大分県の気象条件に適合した乾シイタケ品種の育成	きのこ		R1~4	県単
・しいたけの食味や機能性等の食品としての特性評価 1) 乾シイタケ機能性成分増加技術の確立	きのこ	女子栄養 大学	R1~3	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
・しいたけの生産力強化に向けた技術開発 1) 温暖化に対応した乾シイタケ栽培技術の開発 2) 乾シイタケ原木栽培の早期ほだ化技術の開発 3) 発生量増大を目指したほだ木育成管理技術の開発	きのこ きのこ きのこ		H30~R3 R2~4 R3~5	県単 県単
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発(地域資源、省エネ・環境対策)				
・クヌギチップや食品加工副産物等を利用したきのこ類栽培技術の確立 1) 廃菌床等を利用した低コストシイタケ栽培技術の検討	きのこ		R3~5	
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・野生きのこ類の遺伝子収集と保存	きのこ		H1~	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
林業研究部きのこグループ業務年報(第32号)	R4.2	44	250
情報誌「くらんぷ」第52号	R4.2	7	1,500

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
生野 柁大	原木シイタケ栽培における2才木の打木操作技術	公立林業試験研究機関 研究成果集	No.19(令和 3(2021)年度)	65-66

(3) 研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R3.10.29	第77回九州森林学会大会	生野 柁大・宮本 亮平	2才木への散水と打木操作によるシイタケの発生量の変化
		山下 和久	乾シイタケ保存期間中のビタミンD減少抑制方法の検討
R4.3.15	第72回日本木材学会	宮澤 紀子・山下 和久・ 飯田 千恵美・有馬 忍・ 江口 文陽	品種の異なるシイタケの嗜好性と機能性の評価

(4) 研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和3年度きのこグループ研究発表会	R3. 12. 9	きのこグループ	研究発表 4	50

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア. 林業普及指導員研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 6. 15	試験研究機関における実践研修(1回)	きのこグループ、大分市	4	林務管理課
R3. 7. 8	試験研究機関における実践研修(2回)	きのこグループ	4	林務管理課
R3. 8. 19	試験研究機関における実践研修(3回)	きのこグループ	3	林務管理課
R3. 8. 26	試験研究機関における実践研修(4回)	きのこグループ、大分市	5	林務管理課
R3. 8. 27	試験研究機関における実践研修(5回)	きのこグループ	5	林務管理課
R3. 11. 11	試験研究機関における実践研修(6回)	佐伯市	3	林務管理課
R3. 12. 21	試験研究機関における実践研修(7回)	きのこグループ	5	林務管理課
R4. 2. 8	試験研究機関における実践研修(8回)	きのこグループ、佐伯市	2	林務管理課

イ. 林業普及技術習得研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 5. 27	林業全般基礎(I)前期研修	大分市	8	林務管理課
R3. 6. 10	林業普及技術習得研修(林業一般)	大分市	7	林務管理課
R3. 11. 4	林業全般基礎(I)後期研修	きのこグループ	13	林務管理課
R3. 11. 8	林業全般基礎(II)後期研修	きのこグループ	13	きのこグループ

ウ. 大分しいたけ源兵衛塾(第11期)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 7. 13	大分しいたけ源兵衛塾第5回研修会	玖珠町	22	大分県椎茸振興協議会
R3. 10. 27	大分しいたけ源兵衛塾第6回研修会	きのこグループ	21	大分県椎茸振興協議会
R3. 12. 17	大分しいたけ源兵衛塾第7回研修会	国東市	16	大分県椎茸振興協議会
R4. 2. 22	大分しいたけ源兵衛塾第8回研修会	佐伯市	24	大分県椎茸振興協議会

エ. 新規参入者研修(栽培体験コースを含む)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 8. 4	原木しいたけ栽培新規参入ステップアップ研修	宇佐市	27	北部・東部地区森林・林業活性化協議会
R3. 9. 26	原木しいたけ新規参入者研修(第1回)	きのこグループ	35	林産振興室

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 9. 30	原木しいた栽培新規参入ステップアップ研修(第2回)	国東市	20	北部・東部地区森林・林業活性化協議会
R3. 10. 17	原木しいたけ新規参入者研修(第2回)	きのこグループ	33	林産振興室
R3. 10. 22	大分西部原木しいたけ栽培基礎研修会	日田市	13	西部振興局
R3. 12. 14	シイタケ版ファーマーズスクール研修会	豊後大野市	17	林産振興室
R4. 3. 5	原木椎茸栽培初心者研修	大分市	8	大分中部流域林業活性化センター
R4. 3. 20	原木しいたけ新規参入者研修(第3回)	きのこグループ	27	林産振興室

オ. きのこ生産研修

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
R3. 4. 5	原木生椎茸出荷推進事業部会反省会	杵築市、国東市、宇佐市	9	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R3. 4. 6	原木生椎茸出荷推進事業部会反省会	日田市	11	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会豊肥振興局
R3. 4. 7	原木生椎茸出荷推進事業部会反省会	竹田市	8	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R3. 4. 8	原木生椎茸出荷推進事業部会反省会	豊後大野市、竹田市	11	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R3. 4. 9	原木生椎茸出荷推進事業部会反省会	佐伯市、大分市	8	大分県原木生椎茸出荷推進事業部会
R3. 4. 23	日本一のなば山師になろう会選別会	豊後大野市	22	日本一のなば山師になろう会
R3. 6. 22	玖珠九重農協生椎茸部会研修会	九重町	10	玖珠九重農協生椎茸部会
R3. 7. 20	R3 原木購入・平地化伏せ込み研修会	竹田市	24	林産振興室
R3. 8. 18	武蔵町活着調査	国東市武蔵町	14	武蔵町椎茸生産組合連合会
R3. 8. 25	国見町入れ木コンクール	国東市国見町	21	国見町椎茸生産組合連合会
R3. 10. 28	おのぼり会研修会	竹田市	11	おのぼり会
R3. 11. 2	チェーンソー実践研修	きのこグループ、豊後大野市	9	大分県椎茸振興協議会
R3. 11. 22	佐伯市乾しいたけ良品づくり研修会	佐伯市	39	佐伯市椎茸生産組合連絡協議会
R3. 12. 7	令和3年度喜椎会研修会	宇佐市	14	喜椎会
R4. 1. 18	竹田市ほだ場コンクール	竹田市	11	竹田市椎茸生産振興会
R4. 1. 25	国見町ほだ場コンクール	国東市国見町	22	国見町椎茸生産組合連合会
R4. 3. 2	菌床基礎研修	きのこグループ	6	西部振興局

カ. 人材育成研修等

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 8. 24	大分県インターンシップ研修（林業）	きのこグループ	6	林務管理課
R3. 9. 8	農業大学校講義	きのこグループ	11	大分県農業大学校
R3. 12. 10	令和3年度第5回林業・林業教育指導者育成研修会	きのこグループ	26	森づくり人材育成協議会

キ. 関係団体総会・会議

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 11. 12	大分県椎茸商協研修会	Web 参加	5	大分県椎茸商協

ク. 品評会関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 4. 20	第13回竹田市乾椎茸品評会審査会	竹田市	11	竹田市椎茸生産振興会
R3. 4. 21	令和3年度（第14回）豊後高田市乾椎茸品評会審査会	豊後高田市	6	豊後高田市椎茸生産組合
R3. 4. 22	第15回宇佐市乾椎茸品評会審査会	宇佐市	7	宇佐市椎茸栽培推進協議会
R3. 4. 23	第6回臼杵市乾椎茸品評会審査会・表彰式	臼杵市	11	臼杵市椎茸振興協議会
R3. 4. 26	第10回豊後大野市乾椎茸品評会審査会	豊後大野市	18	豊後大野市椎茸振興会
R3. 4. 26	第1回国東市乾しいたけ品評会審査会	国東市	6	国東市しいたけ振興会
R3. 4. 27	佐伯市椎茸品評会	豊後大野市	9	佐伯市椎茸生産組合連絡協議会
R3. 4. 27	第51回大分市乾椎茸品評会審査会	大分市	9	大分市椎茸生産組合
R3. 4. 28	第10回豊後大野市乾椎茸品評会表彰式	豊後大野市	50	豊後大野市椎茸振興会
R3. 5. 10	第64回大分県乾椎茸品評会審査会（箱物）	大分市	11	大分県椎茸農業協同組合
R3. 5. 17	第64回大分県乾椎茸品評会審査会（袋物）	大分市	22	大分県椎茸農業協同組合
R3. 5. 18	第64回大分県乾椎茸品評会審査会（袋物）	大分市	22	大分県椎茸農業協同組合
R3. 11. 16	第33回大分県生椎茸品評会審査会	大分市	30	大分県椎茸振興協議会

ケ. 一般消費者関係

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 6. 14	第1回シイタケ教室（新田小学校）	きのこグループ	23	豊肥振興局

(2) 受入研修

- ① 長期研修者受け入れ
該当なし

② 生産者、団体職員、普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	23	412
団体等職員	0	0
普及指導員	12	72
学生	2	17
児童・生徒	1	23
海外からの視察者	0	0
その他	1	26
計	39	550

※大学

※小中高校

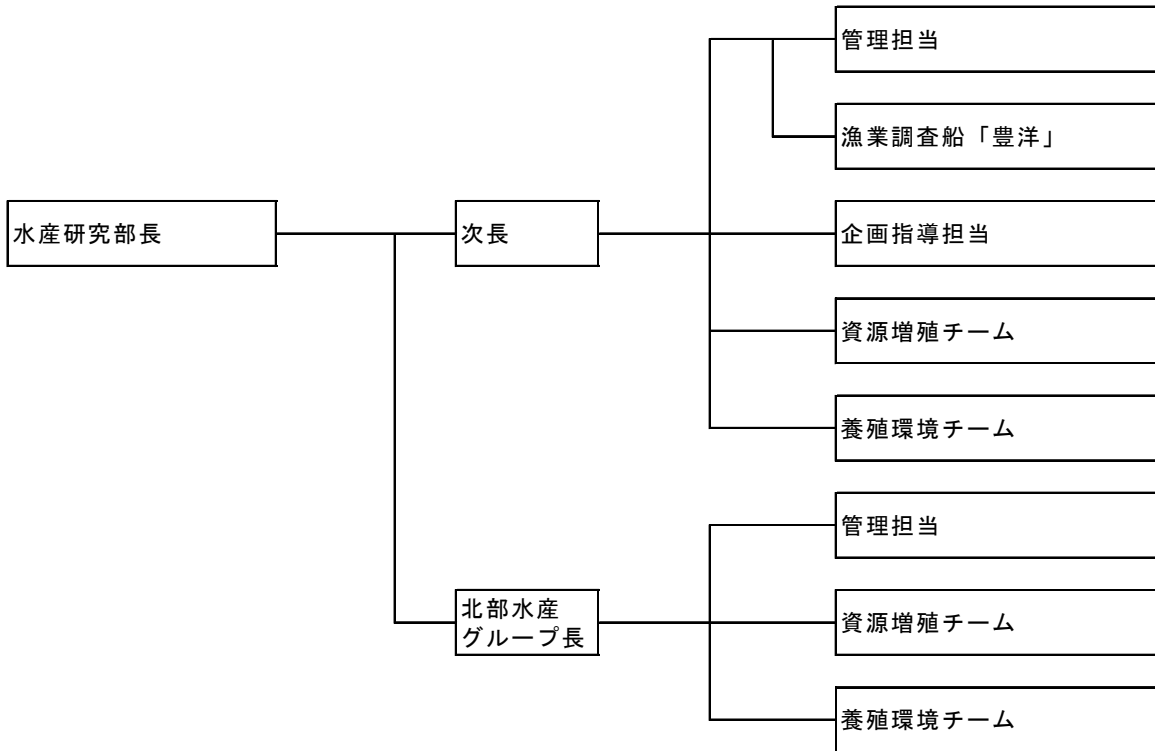
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
乾シイタケ原木栽培の単収向上技術の普及	単収向上に向けた2夏目の高温障害を 방지、ほだ化を促進させる1年起こし（平地化）技術の普及定着。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年起こしの研究成果を取りまとめ、情報誌を作成した。 ・1年起こし、平地伏込みに関する研修を6回以上実施した。 ・優良事例をまとめ、1年起こし作業指針を更新した。 ・新たな取り組み生産者 のべ42名を確保した。

Ⅱ－8 水産研究部（北部水産グループ含む）

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

令和3年4月1日現在

組織		職種	職員		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備考
			事務	技術						
水産研究部	上浦	部長		1					1	海事職員7名
		次長	1						1	
		管理担当	2	7					9	
		企画指導担当		2					2	
		資源増殖チーム		7					7	
	養殖環境チーム		8					8		
	北部水産グループ	グループ長		1					1	
		管理担当	1						1	
		資源増殖チーム		5					5	
		養殖環境チーム		6					6	
計			4	37	0	0	0	0	41	

(3) 業務

- ①漁業の調査研究に関すること
- ②漁業の生産及び技術指導に関すること
- ③水産動植物の増養殖に関すること
- ④漁業技術の改良普及に関すること
- ⑤水産動物の防疫等指導に関すること
- ⑥水産物の利用加工等指導に関すること
- ⑦内水面の増養殖技術の普及指導に関すること
- ⑧漁場環境保全・赤潮等の被害防止技術に関すること
- ⑨その他水産業の技術指導に関すること

2. 試験研究課題(1/3)

水産研究部所管分(1/1)

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・ 養殖生産物の品質改善 1) 新たな養殖技術開発～高品質で低コストな養殖魚生産を目指して～	養殖環境	高知大学 別府大学 大分大学	R3～5	県単
・ ブリ類養殖業生産体制強化促進事業	資源増殖		R3～5	県単
・ ヒラメ耐病性家系の育種	資源増殖		R3～5	県単
・ 養殖魚の抗病性強化法・新規ワクチン開発 1) 魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発 2) 安心・安全で環境に優しい養殖推進事業(クドア) 3) 資源造成型栽培漁業推進事業(種苗検査)	養殖環境 養殖環境 養殖環境	九州大学 愛媛大学	R2～4 R2～ R2～	県単 県単 県単
・ 養殖魚の寄生虫防除法開発 1) 魚類疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発(はだむし対策)	養殖環境	海洋大	H19～	県単
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
・ 資源に関する基礎調査(モニタリング調査) 1) 資源評価関係調査 2) 自主的資源管理体制高度化事業(クルマエビ)	資源増殖 資源増殖	(国研)水産研究・教育機構 (国研)水産研究・教育機構	H12～ R3～5	諸経費委託 諸経費委託
・ 豊予海峡周辺海域におけるマアジ・マサバの資源生態に関する研究	資源増殖		H29～	県単・諸経費委託
・ タチウオ資源回復推進に関する研究	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構	H26～	県単
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発(地域資源、省エネ・環境対策)				
・ 磯焼け対策に関する技術開発(モニタリング調査)	資源増殖		H16～	県単
・ 赤潮・貝毒被害防止技術の開発 1) 漁場環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発 (1) 赤潮防除・被害軽減手法の開発 2) IoT等の新技術を活用した有害・有毒プランクトン対策 3) 漁場環境保全推進事業(赤潮・貝毒発生監視) 4) 養殖マグロ成長産業化推進事業	養殖環境 養殖環境 養殖環境 養殖環境	(国研)水産研究・教育機構	H30～R4 R3～ 長期 R1～3	諸経費委託 県単 県単 県単
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・ 漁場環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発 1) 有害赤潮プランクトンの出現動態監視および予察技術開発(赤潮モニタリング)	養殖環境	(国研)水産研究・教育機構	H30～R4	諸経費委託
・ 水産加工品等高度利用化指導(指導事業)	養殖環境		S61～	県単
・ 基盤整備・栽培漁業・資源回復の推進に関する基礎調査	資源増殖		H26～	県単
・ 資源環境に関するデータの収集、情報の提供(情報提供事業)	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構	長期	県単委託
・ 天然アユ等のモニタリング 1) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査(アユ等)	資源増殖		R2～	県単
・ 養殖衛生管理指導事業(海面防疫対策)(指導事業)	養殖環境		H12～	国庫補助
・ 養殖漁場の適正利用推進調査(モニタリング事業) 1) 養殖漁場の適正利用推進調査(モニタリング事業)	養殖環境		H12～	県単

2. 試験研究課題(2/3)

水産研究部 北部水産グループ所管分(1/2)

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
1) 研究分野：I 実用化研究(基本施策に基づき早期に課題解決を目指すもの)				
I 構造改革の更なる加速のための技術開発(イノベーション・流通対策)				
・ 海藻(ヒジキ、クロメ、ワカメ等)の新たな養殖技術開発 1) ヒジキ完全養殖技術の開発	養殖環境		R3~5	県単
II マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発(高品質、低コスト、加工原料生産、優良品種)				
・ ナマコおよびアサリ等二枚貝の種苗生産技術開発 1) 高級二枚貝タイラギの種苗生産・増養殖技術・母貝団地造成技術の開発	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	H27~	県単委託
2) 養殖カキのシングルシード人工種苗生産	資源増殖		R3~5	県単
・ 新規養殖種及び増養殖手法の探索 1) 高級キジハタ種苗生産技術開発	資源増殖		R2~6	県単
2) マダコ養殖の事業化に向けた飼育技術の高度化と普及	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、東京海洋大学、関係県 他	R3~5	委託
・ 海藻類、カキ類、エビ類の種苗生産技術及び養殖技術の研修・指導 1) クロメ養殖推進事業	養殖環境		H29~	県単
2) クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発	資源増殖 養殖環境	(国研)水産研究・教育機構、関係県	R2~4	委託
III 力強い担い手を育成するための技術開発(省力化、大規模化)				
・ 資源に関する基礎調査(モニタリング調査) 2) 資源評価関係調査	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	H12~	委託
・ 主要河川におけるアユ資源の有効利用手法の開発	養殖環境		R1~3	県単
IV 地域資源等の活用と環境対策等の技術開発(地域資源、省エネ・環境対策)				
・ アサリ天然稚貝の利用と資源回復推進に関する研究 1) 母貝としての天然稚貝の有効活用・養殖拡大の実証	資源増殖		R3~	県単
・ 栽培対象魚種技術開発事業(マコガレイ、クルマエビ)	資源増殖		R3~	県単
・ 無給餌養殖推進事業(カキ、アサリ、タイラギ、海藻)	資源増殖 養殖環境		R3~	県単
・ 赤潮・貝毒被害防止技術の開発	養殖環境	(国研)水産研究・教育機構、関係県	—	県単委託

2. 試験研究課題 (3/3)

水産研究部 北部水産グループ所管分 (2/2)

試験研究課題名	担当 チーム	連携 機関	研究 期間	予算 区分
1) 大課題 I 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)				
2) 研究分野：II 基礎調査研究(長期にわたり調査・分析・育種などを行うもの)				
・ 持続的養殖生産確保推進事業(北部水域)(指導事業) 1) 魚病診断と対策指導	養殖環境		H12～	国庫補助
・ 二枚貝の資源動向の把握および回復施策の検討 1) 地域重要魚貝類の資源動向及び回復施策に関する研究	資源増殖		長期	県単
・ 有害生物漁業被害防止対策 1) ナルトビエイ出現調査 2) 外来魚・カワウ等による食害被害軽減対策指導	資源増殖 養殖環境		— 長期	委託 県単
・ 基盤整備・栽培漁業・資源回復の推進に関する基礎調査	資源増殖		—	県単
・ 自主的資源管理体制高度化事業(クルマエビ)	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県	R3～5	委託
・ 資源管理強化拡大対策事業(オニオコゼ、キジハタ、マダコ)	資源増殖	(国研)水産研究・教育機構、関係県		委託
・ ハモ等食品加工残渣を利用した効率的な操業支援実証事業	資源増殖		R3～	県単
・ 資源環境に関するデータの収集、情報の提供(浅海定線調査、情報提供等)	資源増殖 養殖環境	(国研)水産研究・教育機構、関係県	長期	県単 委託
・ ノリ養殖指導・情報提供	養殖環境		H23～	県単
・ 天然アユ等のモニタリング 1) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査(アユ等)	養殖環境		H21～	県単
2) 海域でのうなぎ生息調査事業			R1該当無し	
・ 河川環境モニタリング 1) 漁場環境保全推進事業(内水面)	養殖環境		H22～	県単

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
おおいたアクアニュース No. 53	R3. 7. 30	20	H P 掲載
おおいたアクアニュース No. 54	R4. 1. 21	13	H P 掲載

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
<u>徳光俊二</u> ・後藤直登	豊後水道周辺におけるタチウオの漁況	黒潮の資源海洋研究	第23号	33-38
<u>白樫真</u> ・竹尻浩平・前田真梨子・安部洋平	大分県海域におけるハモの成熟時期と性比	黒潮の資源海洋研究	第23号	101-104
<u>中尾拓貴</u>	豊後水道西側におけるイサキの資源量推定	黒潮の資源海洋研究	第23号	115-120
Channapha Sakseepipad, Reiko Nozaki, <u>Keisuke Yoshii</u> , <u>Yutaka Fukuda</u> , Kaori Mizuno, Hidemasa Kawakami, Ikuo Hirono, Hidehiro Kondo	Development of single nucleotide polymorphism (SNP) application for detection and genotyping of RSIV-type megalocytiviruses	Journal of Fish Diseases	44(9)	1337-1342
Hidehiro Kondo, Tatsuharu Kikumoto, <u>Keisuke Yoshii</u> , Naoya Murase, <u>Hidetoshi Yamada</u> , <u>Yutaka Fukuda</u> , Ikuo Hirono	Effects of Peptidoglycan and Polyinosinic: Polycytidylic Acid on the Recombinant Subunit Vaccine Efficacy Against <i>Edwardsiella tarda</i> in Japanese Flounder <i>Paralichthys olivaceus</i>	Fish Pathology	56(3)	149-155
Sho Shirakashi, Satoshi Nishikawa, Yuji Ishii, Hidemasa Kawakami, Yoshiaki Imaoka, <u>Keisuke Yoshii</u> , Jun Satoh, Chihaya Nakayasu, Mamoru Ishihara, Tomoko Fukui, Kazuhiko Hirose	Efficacy of Febantel against Gill Monogeneans of Amberjacks II: Field Trial Assessment	Fish Pathology	56(4)	212-215
<u>吉井啓亮</u>	ヒラメのエドワジエラ症発生状況と対策	アクアネット	第24巻11号	42-45
Tomoyuki Shikata, Goh Onitsuka, Hiroshi Shono, Makiko Hirai, Daiki Inokuchi, <u>Kazuyoshi Miyamura</u>	Meteorological Factors Influencing the Timing and Magnitude of Bloom by the Noxious Dinoflagellate <i>Karenia mikimotoi</i> in Two Bays of Bungo Channel, Japan	JARQ	56(2)	189-198
<u>伊藤龍星</u> ・横田真人・玉田縁	佐伯の殿様、浦で持つ 浦の恵みは山で持つー佐伯市の水産業と魚つき保安林ー	大分自然博物誌ブンゴエンシス	4	86-87
<u>伊藤龍星</u> ・飯間雅文	大分県で見られる食用希少藻類カワノリ	大分自然博物誌ブンゴエンシス	4	98-99
Hikaru Endo, Toru Sugie, Yukiko Yonemori, Yuki Nishikido, Hikari Moriyama, <u>Ryusei Ito</u> and Suguru Okunishi	Vegetative Reproduction Is More Advantageous Than Sexual Reproduction in a Canopy-Forming Clonal Macroalga under Ocean Warming Accompanied by Oligotrophication and Intensive Herbivory	Plants	10(8)	https://www.mdpi.com/2223-7747/10/8/1522
<u>伊藤龍星</u> ・ <u>入江隆乃介</u>	大分県で食べられている「くろめ」は「クロメ」か	令和3年度 瀬戸内ブロック水産業関係試験研究推進会議藻類情報交換会 資料集	—	45-46
<u>吉岡宗祐</u>	大分県で実施した耐病性クルマエビの養殖生産試験	養殖ビジネス	2022年3月号	8-11

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
森本遼平、 <u>木村聡一郎</u> 、宇都宮のぞみ	シングルシード養殖が盛んな大分県での地場種苗利用	成果普及資料 地場種苗を活かしたマガキ養殖のすすめ～その理論と実践～	—	46-47
Yasuhiko Kawato, Tomoki Maeda, Toyohiro Nishioka, Ikunari Kiryu, Tohru Mekata, Tomomasa Matsuyama, Kozue Tensha, Isao Yamashita, Yoshihiro Kawamura, Atsushi Raku, Kei Senbokuya, Soetsu Yanagi, <u>Kyoji Hayashi</u> , Akira Kumagai and Koh-ichiro Mori	Asymptotically Infected Broodstock are a Potential Infection Source for Aquareovirus Outbreaks in Hatchery-reared Japanese Flounder <i>Paralichthys olivaceus</i>	魚病研究	57(1)	11-19
Masahiko Awaji, Toshie Matsumoto, Shohei Funayama, Takeshi Kanazawa, <u>Soichiro Kimura</u> , Shingo, Sawada, Masayuki Yamamoto, Daisuke Ojima, Masaei Kanematsu	Artificial Fertilisation method for the production of pen shell <i>Atrina pectinata</i> juveniles in hatcheries	Aquaculture	in press	

※下線は当センター該当職員

（3）研究会、学会等での発表

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
R3. 5. 24	第23回シャットネラ等赤潮対策推進協議会	宮村和良	大分県佐伯湾における養殖マグロ赤潮対策と課題
R3. 10. 20	令和3年度中央ブロック資源海洋調査研究会	<u>徳光俊二</u> ・後藤直登	豊後水道周辺におけるタチウオ漁況
R3. 10. 20	令和3年度中央ブロック資源海洋調査研究会	白樫 真	大分県海域におけるハモの成熟時期と性比
R3. 10. 20	令和3年度中央ブロック資源海洋調査研究会	中尾拓貴	豊後水道西側におけるイサキの資源量推定
R3. 11. 4	第10回 CAINES セミナー	宮村和良	大分県沿岸における赤潮発生状況とIoT技術利用による赤潮監視について
R3. 11. 10	瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会	吉岡宗祐	クルマエビのホワイトスポット病耐病性品種開発に関する取組み
R4. 3. 1	アユの疾病研究部会	吉岡宗祐	異型細胞性鰓病の早期診断と迅速診断の試み
R4. 3. 5	令和3年度日本魚病学会春季大会	<u>村瀬直哉</u> ・嶋原佳子・ <u>福田 稔</u> ・ <u>山田英俊</u> ・ <u>吉井啓亮</u> ・吉田照豊	大分県の養殖海産魚から分離された <i>Lactococcus garvieae</i> II型の抗原構造の比較
R4. 3. 6	令和3年度日本魚病学会春季大会	吉野友晃・松浦雄太・前田知己・中川徹優・高野倫一・梅田剛佑・ <u>福田 稔</u> ・石川孝典・松山知正	ニジマスに対する <i>Streptococcus iniae</i> 市販ワクチンの効果および流行株の多型解析
R4. 3. 6	令和3年度日本魚病学会春季大会	<u>吉井啓亮</u> ・ <u>村瀬直哉</u> ・ <u>山田英俊</u> ・ <u>福田 稔</u> ・飯田貴次・北村真一	ヒラメのリンホシスチス病の感染実験系
R4. 3. 6	令和3年度日本魚病学会春季大会	石原 光・原川翔伍・川上秀昌・ <u>吉井啓亮</u> ・ <u>村瀬直哉</u> ・ <u>山田英俊</u> ・ <u>福田 稔</u> ・野崎玲子・川戸 智・小祝 敬一郎・廣野育生・近藤秀裕	2021年日本国内で発生したマダイイリドウイルス (RSIV) の全ゲノム解析
R4. 3. 27	令和3年度日本水産学会春季大会	北辻さほ・紫加田知幸・宮村知良・野田誠・井口大輝・隠塚俊満・多田邦尚	マグロ養殖場の栄養塩環境が有害赤潮藻 <i>Karenia mikimotoi</i> に及ぼす影響
R4. 3. 28	令和3年度日本水産学会春季大会	山本宗一郎	周防灘に生息するマコガレイの夏季の経験水温・深度および推定分布域

※下線は当センター該当職員

（４）研究成果発表会等

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
令和3年度豊後水道研究集会	R3. 11. 29～30	愛媛大学総合研究棟 16 階会議室	1	1
令和3年度大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会	R4. 3. 16	県庁舎新館 14 階大会議室	11	63

4. 研究成果の普及、技術指導

（１）講習会、研修会等の開催

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R3. 4. 26	令和3年度ヒラメ養殖関連事業説明会(クドア食中毒防止対策)	大分県漁協下入津支店	21	主催：水産振興課
R3. 4. 28	令和3年度ヒラメ養殖関連事業説明会(クドア食中毒防止対策)	大分県漁協佐伯支店	18	主催：水産振興課
R3. 6. 8	注射ワクチン接種技術講習会	水産研究部	6	主催：水産研究部
R3. 7. 11	地元産業魅力説明会	大分県立佐伯鶴城高等学校	28	主催(要請機関)：大分県立佐伯鶴城高等学校
R3. 7. 20	豊後水道北部海区漁業運営委員長・3市水産主務課長連絡会議	大分県臼杵土木事務所	23	主催：水産研究部
R3. 7. 22	体験型子ども科学館オーラボ 科学体験講座(海の植物 海藻を知ろう)	大分市	38	大分県教育委員会
R3. 7. 28	東国東・別府湾地区漁業運営委員長及び市町村水産主務課長会議	大分県日出総合庁舎	27	主催：北部水産グループ
R3. 8. 26	豊後水道南部海区漁業運営委員長・市水産主務課長連絡会議	メール会議	—	主催：水産研究部
R3. 11. 5	愛媛県・大分県タチウオ釣り漁業者意見交換会	八幡浜市水産物地方卸売市場 2F	30	主催：水産庁瀬戸内海漁業調整事務所
R3. 11. 16	トラフグ養殖部会	大分県漁協下入津支店	14	主催：大分県水産養殖協議会
R3. 11. 19	愛媛県大中型まき網漁業とタチウオ釣り漁業との操業に関する協議	愛媛県南予地方局八幡浜支局 7F	35	主催：水産庁瀬戸内海漁業調整事務所
R3. 12. 11	ミズクラゲ勉強会	大分県漁協別府支店	39	別府湾水産振興協議会
R4. 1. 13	東海大学海洋学部特別講義「島嶼社会論」における「大分県民参加型赤潮対策と地域振興」	東海大学 (Web 参加)	12	主催：東海大学
R4. 1. 18 ～1. 20	ブリ養殖技術現地指導	臼杵市・佐伯市	5	主催：水産研究部
R4. 2. 10	豊後灘海面利用地区協議会	国東市	9	豊後灘海面利用地区協議会
R4. 2. 24 ～2. 25	大分県漁業学校 (漁場環境調査・赤潮診断技術、栽培漁業、漁場整備、魚類・海藻生態学、水産資源調査)	水産研究部	2	主催：大分県漁業協同組合、水産振興課
R4. 3. 2 ～3. 4	大分県漁業学校 (養殖基礎技術、漁場調査、赤潮診断技術、栽培漁業、魚類・海藻生態学、水産資源調査)	北部水産グループ	2	主催：大分県漁業協同組合、水産振興課

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
R4. 3. 11	アサリ情報交換会	北部水産グループ	8	杵築市、東部振興局、北部振興局
R4. 3. 12	令和3年度大分県タチウオ漁業者検討会	水産会館	19	主催：大分県漁業協同組合
R4. 3. 22	アサリ養殖協議会報告会	大分県漁協中津支店	15	大分県漁業協同組合中津支店
R4. 3. 24	佐賀関一本釣りとは津まき網漁業との調整会議	大分県臼杵土木事務所	23	主催：大分県漁業協同組合
R4. 3. 25	大分県資源管理協議会臨時総会	水産会館	11	主催：大分県漁業協同組合

（2）受入研修

① 長期研修受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	2	10
団体等職員		6
普及指導員		2
学生	1	1
児童・生徒	4	65
海外からの視察者	0	0
その他	1	17
計	8	101

※大学

※小中高校

（3）指導・研修プロジェクトの実証

課題名	目的	現地実証等の概要
マガキの天然採苗技術とシングルシード養殖の普及	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県北海域で確立されたマガキの天然採苗技術を県南海域にも導入することで、県下のシングルシードを用いたマガキ養殖の普及拡大を図る。 ・ 近年、「佐伯真牡蠣」として新規シングルシード養殖が開始された佐伯市鶴見地区を普及ターゲットに設定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月からの早期天然採苗は不調であったが、7月から採苗を開始し、8月に回収すれば、大型種苗をより多く、より早期に確保出来る可能性のあることが示唆された。 ・ 基質として、空き「ペットボトル」、カキ殻を粉砕・成形加工して製造された固形物「ケアシエル」及び合成樹脂で加工製造された軟質素材「クペル」を用いた3種の採苗器のうち、「ペットボトル」と「クペル」が現場に適した採苗器であると考えられた。 ・ 9～2月の養殖試験においては、比較的流速の早い、潮通しのよい場所で成長が良好なことが明らかとなった。

農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先

組織名	郵便番号	所在地	電話番号	FAX 番号
農林水産研究指導センター	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2328-8	0974-28-2074	0974-28-2052
○農業研究部	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2328-8	0974-22-0670	0974-22-0675
水田農業グループ	872-0103	宇佐市大字北宇佐 65	0978-37-1141	0978-37-0036
果樹グループ	873-0511	国東市国東町小原 4402	0978-72-0407	0978-72-3402
カボス・中晩柑チーム	879-2413	津久見市大字津久見浦 3456	0972-82-2837	0972-82-5322
落葉果樹チーム	872-0103	宇佐市大字北宇佐 65	0978-37-0149	0978-37-1437
花きグループ	874-0844	別府市大字鶴見 710-1	0977-66-4706	0977-67-5218
○畜産研究部	878-0201	竹田市久住町大字久住 3989-1	0974-76-1216	0974-76-1227
豚・鶏チーム	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2328-8	0974-22-0673	0974-22-0980
○林業研究部	877-1363	日田市大字有田字佐寺原 35	0973-23-2146	0973-23-6769
きのこグループ	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 2369	0974-22-4236	0974-22-6850
○水産研究部	879-2602	佐伯市上浦大字津井浦 194-6	0972-32-2155	0972-32-2156
北部水産グループ	879-0608	豊後高田市呉崎 3386	0978-22-2405	0978-24-3061

令和3年度
(2021年度)
大分県農林水産研究指導センター業務年報

令和4年（2022年）7月発行

編集
発行 大分県農林水産研究指導センター

〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺 2328-8
TEL 0974-28-2074
FAX 0974-28-2052